

令和 5 年度青少年海外派遣研修事業  
(2023 年度)

# 派遣研修報告書

公益財団法人花巻国際交流協会

## ◆目次

・目次	・・・	1
・公益財団法人花巻国際交流協会 理事長挨拶	・・・	2
・事業の概要	・・・	3
・派遣先都市の紹介	・・・	4
・派遣生徒と引率者名簿	・・・	6
・事前研修会、出発式、事後研修会、報告会	・・・	7
・派遣研修日程紹介	・・・	10
・成果発表プレゼンテーション資料		
アメリカ合衆国    ホットスプリングス市	・・・	16
オーストリア共和国    ベルンドルフ市	・・・	22
アメリカ合衆国    ラットランド市	・・・	29
アメリカ合衆国    クリントン村	・・・	36
・派遣研修報告書		
アメリカ合衆国    ホットスプリングス市	・・・	44
オーストリア共和国    ベルンドルフ市	・・・	62
アメリカ合衆国    ラットランド市	・・・	88
アメリカ合衆国    クリントン村	・・・	102
・新聞記事	・・・	122
・事務局紹介	・・・	126



ご挨拶

公益財団法人花巻国際交流協会  
理事長 佐々木 史昭

花巻市の姉妹都市交流は、旧花巻市が米国アーカンソー州ホットスプリングス市と行っていたものを基調に、旧大迫町とオーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市、旧石鳥谷町と米国バーモント州ラットランド市、旧東和町と米国ウィスコンシン州クリントン村がそれぞれ続けてきた交流を、2008年に合併した新花巻市が受け継ぎ、花巻市内すべての中高生がどの姉妹友好都市とも交流出来るように発展的に統合・調整して現在に至っており、岩手県内で最も規模が大きく、内容も濃い姉妹都市交流として高い評価をいただいております。これもひとえに長年にわたりご尽力されてきた花巻市及び花巻国際交流協会の歴代関係各位、市民関係者みなさまのおかげであり、心から感謝申し上げます。

2020年春に発生した新型コロナウイルスパンデミックにより、花巻市内全ての姉妹都市交流は中断し、丸3年リアルな交流は行われませんでした。2023年5月に新型コロナウイルスの感染症分類が5類に移行して以降、2023年度内に姉妹友好都市4箇所と従前と変わらぬ派遣・受入事業が再開され、お互いの無事と変わらぬ友好を再確認することが出来、大変嬉しく思っております。

とくに花巻市とホットスプリングス市は、2023年に姉妹都市締結30周年を迎え、9月に同市から19名の姉妹都市訪問団を迎えて記念式典・祝賀会を盛大に開催することが出来、10月には花巻市長、議長、教育長含む17名の市民訪問団がホットスプリングス市を訪問し、多くの関係者みなさま方と共に30周年記念式典をお祝いすることが出来ました。私は花巻国際交流協会理事長として、花巻では日本語で、ホットスプリングスでは英語で、花巻サイドからの交流10年の軌跡について、プレゼンテーションさせて頂きましたので、ここで主要な点を紹介致します。

- ① 中学・高校生の派遣・受入事業は、コロナウイルスで3年の空白があったものの2013-23年で、派遣生77名、受入生105名、教師や市民含めた交流人員は累計421名に登る壮大な規模になっていること。
- ② 姉妹校同士の独自の交流が進み、2016年には花巻北高とASMSAが姉妹校締結、2019年には花巻東高校とレイクサイド高校の硬式野球部がホットスプリングスで交流親善試合を行うなど、独自の事業が展開されていること。
- ③ 市民交流の発展型として、姉妹都市由来で日本に滞在し日本酒の醸造技術を学んだベン・ベル氏が中心となり、日本酒を醸造する会社オリガミサケがホットスプリングスで起業され、ビジネス交流に発展したこと。

花巻国際交流協会は、派遣・交流を経験された多くの生徒、市民のみなさんが国際的視野を持って郷土花巻を愛し、世界・日本・岩手・花巻において大きく活躍されるよう、これからも益々愛情を持ってサポートを継続して参ります。

## ◆事業の概要

花巻市の将来を担う青少年を海外に派遣し、他国の歴史、文化、習慣等に触れることによって広い視野と洗練された国際感覚を身につけ、国際社会から信頼される人間形成の一助とすることを目的として、花巻市在住の中学2年生計23名（24名中1名ケガにより辞退）を下記4か所の国際姉妹都市等へ派遣しました。

### 記

1 主 催 公益財団法人花巻国際交流協会

2 共 催 花巻市・花巻市教育委員会

### 3 派遣先及び派遣時期

(1) アメリカ合衆国アーカンソー州ホットスプリングス市 (姉妹都市)

派遣時期 : 令和5年11月6日(月)～11月15日(水)・10日間

(2) オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市 (友好都市)

派遣時期 : 令和5年11月5日(日)～11月14日(火)・10日間

(3) アメリカ合衆国バーモント州ラットランド市 (姉妹都市)

派遣時期 : 令和5年10月26日(木)～11月5日(日)・11日間

(航空機遅延により1日延長)

(4) アメリカ合衆国ウィスコンシン州クリントン村 (友好関係都市)

派遣時期 : 令和5年10月26日(木)～11月4日(土)・10日間

(航空機遅延により1日延長)

### 4 派遣人員

派遣先ごとに花巻市在住の中学2年生各6名と引率者各1～2名を派遣しました。

### 5 選考について

選考委員会による厳正なる書類選考と面接によって派遣生徒24名を決定しました。

## ◆派遣先都市の紹介

**Hot Springs, Arkansas** (アメリカ合衆国アーカンソー州ホットスプリングス市)

人口約 38,109 人

ホットスプリングス市は、アーカンソー州の中西部に位置する都市です。「ホットスプリングス」という市名が示す通り温泉で知られており、花巻市とは、両市が美しい自然や温泉に恵まれた都市であるなど多くの共通点があります。

平成 5 年 (1993 年) 1 月 15 日の国際姉妹都市提携以降、青少年の海外派遣や受入、市民や教員の受入を行っています。令和 5 年 1 月に国際姉妹都市提携 30 周年を迎え、両市民の相互訪問による交流などの記念事業を行いました。

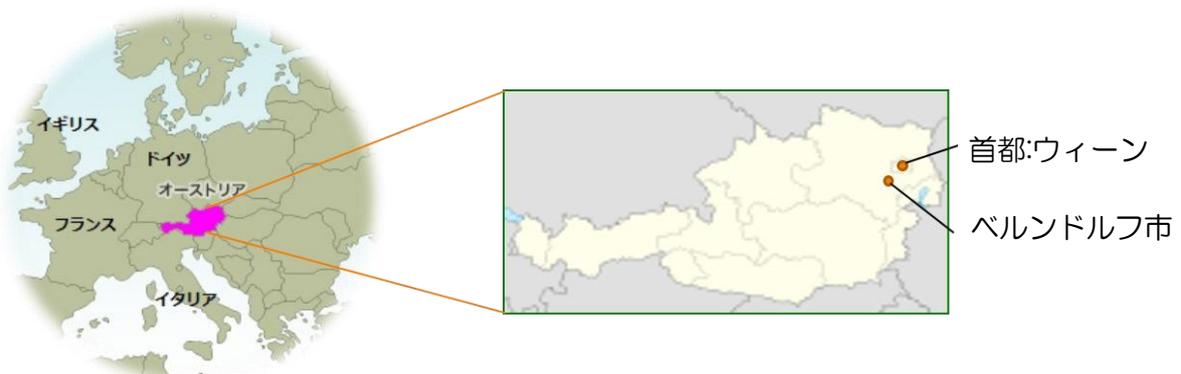


**Berndorf, Niederösterreich** (オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州

ベルンドルフ市) 人口約 8,956 人

ベルンドルフ市はオーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州の山間部にある文化都市です。ぶどう栽培が盛んで、ワイナリーもあります。ハヤチネウスキソウ（早池峰の花）とエーデルワイス（アルプスの花）がよく似ているという縁もあり、昭和 40 年 (1965 年) 10 月 12 日に旧大迫町と国際友好都市提携の記念式典を行いました。

令和 2 年に国際友好都市提携 55 周年を迎えました。現在も青少年海外派遣事業や海外青少年受入事業により相互交流が行われています。



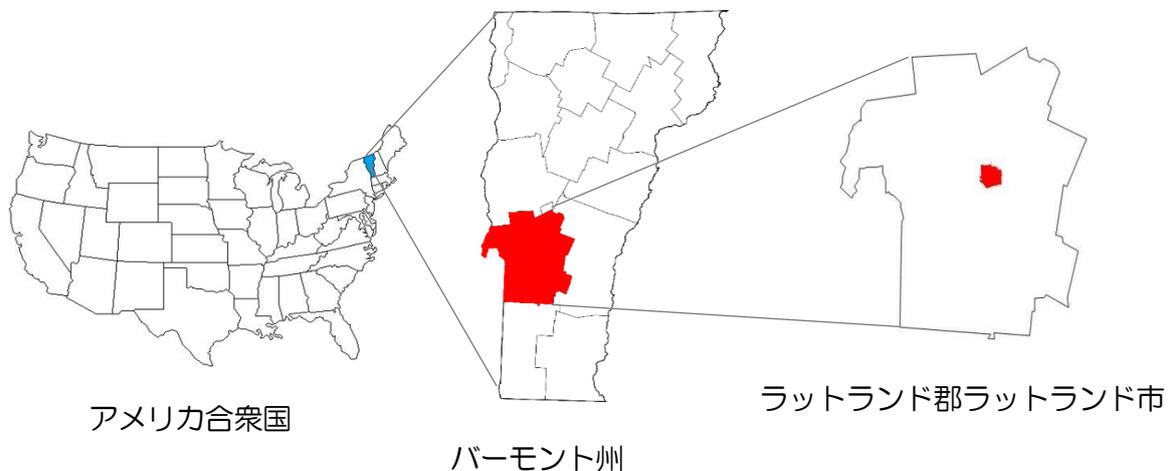
**Rutland, Vermont** (アメリカ合衆国バーモント州ラットランド市)

人口約 15,695 人

ラットランド市は、アメリカ合衆国バーモント州南西部ラットランド郡の郡庁所在地で大理石やメイプルシロップなどで知られる歴史ある街です。

インディアナ州のアールム大学を訪れた当時の石鳥谷町長が担当教授からバーモント州訪問を勧められ、その教え子がラットランド市長と懇意の間柄であったことから両市町長が意気投合して姉妹都市提携の機運醸成を図り、昭和 61 年 (1986 年) 10 月 8 日に旧石鳥谷町と国際姉妹都市の提携を行いました。

昭和 63 年からは中学生の交換プログラムがスタートし、令和 3 年 10 月には国際姉妹都市提携 35 周年を迎えました。現在も継続して交流が続いています。



**Clinton, Wisconsin** (アメリカ合衆国ウィスコンシン州クリントン村)

人口約 2,185 人

クリントン村はウィスコンシン州ロック郡にある、酪農が盛んな村です。

クリントン村で農業研修をした旧東和町民が当時の教育長宅にホームステイしたことをきっかけに、昭和 63 年に旧東和町から 3 人を派遣、クリントン村から 3 人を受け入れし、相互交流を開始しました。



◆派遣生徒と引率者名簿

派遣先	所属	氏名	性別
ホットスプリングス市	南城中学校	イトウ シオリ 伊藤 史織	女
	花巻中学校	サカモト ひろな 坂本 ひろな	女
	宮野目中学校	タカハシ ヨウスケ 高橋 陽輔	男
	花巻北中学校	チバ カムイ 千葉 カムイ	男
	宮野目中学校	ヨネクラ レイカ 米倉 怜花	女
	南城中学校(引率)	カサイ ショウコ 葛西 祥子	女
	国際交流協会(引率)	タダチ カ 多田 千華	女
ベルンドルフ市	東和中学校	ウメキ アキラ 梅木 聖	女
	宮野目中学校	オカモト クルミ 岡本 来海	女
	花巻北中学校	キクチ ウミ 菊池 蒼海	男
	湯口中学校	ササキ アヤカ 佐々木 彩花	女
	宮野目中学校	スルガ サクラ 駿河 桜	女
	花巻北中学校	ミヨシ ユウシン 三好 裕心	男
	矢沢中学校(引率)	ミウラ ミワヨ 三浦 美和子	女
	国際交流室(引率)	スズキ コウヤ 鈴木 皓也	男
ラットランド市	石鳥谷中学校	ササキ ワカナ 佐々木 和奏	女
	南城中学校	サトウ サエ 佐藤 桜衣	女
	宮野目中学校	タカハシ ショウタ 高橋 翔太	男
	矢沢中学校	タダチ ミオン 多田 心音	女
	花巻中学校	テルイ ミオ 照井 滯	女
	東和中学校	ヨシザワ リョウタ 吉澤 亮太	男
	国際交流協会(引率)	ササキ リサ 佐々木 李紗	女
クリントン村	花巻中学校	カクダテ ミサ 角館 実咲	女
	矢沢中学校	サイトウ ハルカ 斎藤 悠	女
	東和中学校	サトウ ルイ 佐藤 琉唯	女
	宮野目中学校	タカハシ マオ 高橋 麻央	女
	宮野目中学校	ホリウチ タイラ 堀内 大楽	男
	西南中学校	ヤエガシ アユミ 八重樫 愛弓	女
	国際交流室(引率)	ササキ ミク 佐々木 未来	女

海外派遣研修にあたり、派遣生と引率教諭は事前研修 8 回、事後研修 3 回の全 11 回の研修会に参加しました。帰国後は、国際フェア in はなまき 2023 で派遣の成果について報告しました。

## ◆事前研修会

7/21 (金)	<b>【第 1 回事前研修会】 18:00～20:00</b> 理事長講話 - 「海外派遣事業について」 ・海外派遣研修事業の説明／旅行手続きについて ・提出書類について
7/31 (月)	<b>【第 2 回事前研修会】 15:00～17:00</b> ・研修テーマについて ・英語研修 アイスブレイキング、英語コミュニケーション活動
8/4 (金)	<b>【第 3 回事前研修会】 15:00～17:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介）の準備 ・英語研修 英語コミュニケーション活動、ドイツ語でのあいさつ
8/8 (火)	<b>【第 4 回事前研修会】 15:00～17:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介）の準備 ・英語研修 チームビルディング、英語コミュニケーション活動、ドイツ語での自己紹介、海外文化やマナーについて
8/29 (火)	<b>【第 5 回事前研修会】 18:00～19:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介） 英語で原稿作成
9/12 (火)	<b>【第 6 回事前研修会】 18:00～19:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介） 英語原稿修正、発表練習
9/20 (水)	<b>【第 7 回事前研修会】 18:00～19:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介） 英語原稿完成、発表練習
9/27 (水)	<b>【出発式リハーサル】 18:00～20:00</b> ・現地プレゼン（花巻市紹介）発表 ・英語研修 入国審査の会話練習

## ◆出発式

10/6 (金)	18:00~20:00 <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣生徒紹介及び派遣生徒代表挨拶</li> <li>・来賓挨拶（上田東一市長）、主催者挨拶（佐々木史昭理事長）</li> <li>・記念撮影</li> </ul>
-------------	--

## ◆事後研修会

11/21 (火)	<b>【第1回事後研修会】</b> 18:00~19:00 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外派遣振り返り</li> <li>・報告会発表準備（原稿作成）</li> <li>・国際フェア準備（派遣報告展示の準備）</li> </ul>
11/28 (火)	<b>【第2回事後研修会】</b> 18:00~19:00 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会発表準備（原稿を完成）</li> <li>・国際フェア準備（派遣報告展示の準備）</li> </ul>
12/5 (火)	<b>【第3回事後研修会】</b> 18:00~20:00 <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会発表準備（発表練習）</li> <li>・国際フェア準備（派遣報告展示を完成）</li> </ul>

## ◆事前・事後研修会



◆ 出発式 10月6日(金)



◆ 派遣研修 (出発、現地プレゼンテーション、帰国)



◆ 国際フェア in はなまき 2023

12月10日(日)



## 派遣研修日程紹介

## アメリカ合衆国アーカンソー州ホットスプリングス市派遣日程

派遣期間： 令和5年11月6日から11月15日

月日・曜日	時間	場所	内容
11月6日 (月)	10:20	新花巻駅	やまびこ56号に乗車し東京へ、13:24到着
		東京駅	JR線と東京モノレールにて羽田空港第3ターミナル駅へ、14:45頃到着
	18:00	羽田空港	出国手続後、アメリカン航空AA176便にてアメリカへ
	日付変更線通過		
	14:35	ダラス・フォートワース空港	ダラス・フォートワース空港到着、入国手続き、国内線へ乗換
18:30	ダラス・フォートワース空港	アメリカン航空AA3475便にてリトルロック空港へ、22:30到着	
21:00	ホットスプリングス市	バスにてホットスプリングス市へ移動、ホストファミリーと対面、ホームステイ開始	
11月7日 (火)	午前 午後	ホットスプリングス市	ダウンタウン見学（一部の派遣生）、ASMSAを訪問、授業に参加 教会を見学、保育所を見学、児童と交流、シティマネージャーと面談、 ガーランドカウンティ図書館で市民とホストファミリーと交流会
11月8日 (水)	終日	ホットスプリングス市近郊	ジェシーヴィル学校を訪問、見学、コールマン水晶鉱山を見学、採掘体験
11月9日 (木)	午前 午後	ホットスプリングス市近郊	レイク・ハミルトン学校地区を訪問、見学 マウンテン・パイン学校地区を訪問、見学、ミッドアメリカサイエンス ミュージアムを見学
11月10日 (金)	終日	ホットスプリングス市	ホットスプリングス学校地区を訪問、見学、ギャラクシーミュージアム を見学
11月11日 (土)	終日	ホットスプリングス市 及び近郊	ホストファミリーデー
11月12日 (日)	終日	ホットスプリングス市 及び近郊	ホストファミリーデー 夕方：姉妹都市提携30周年を記念する灯籠流し
11月13日 (月)	終日	ホットスプリングス市 及び近郊	ホストスチューデントと登校、授業に参加 夕方：ホストファミリーと別れ、リトルロック市へ移動、ホテル泊
11月14日 (火)	6:00	リトルロック空港	空港へ移動し、アメリカン航空AA3794便にてダラス・フォートワース空 港へ、7:36到着
	10:30	ダラス・フォートワース空港	アメリカン航空AA61便にて成田空港へ
	日付変更線通過		
11月15日 (水)	15:30	成田空港	成田空港に到着、入国手続き、成田エクスプレス44号にて東京駅へ、19:18 到着
	19:40	東京駅	はやぶさ111号にて新花巻駅へ
	22:10	新花巻駅	新花巻駅に無事到着、解散式後、帰宅

## オーストリア共和国ニーダーエスタライヒ州ベルンドルフ市派遣日程

派遣期間： 令和5年11月5日から11月14日

月日・曜日	時間	場所	内容
11月5日 (日)	14:20  21:55	新花巻駅 東京駅 羽田空港	やまびこ64号に乗車し東京へ、17:24到着 JR線と東京モノレールにて羽田空港第3ターミナル駅へ、18:45頃到着 出国手続後、フィンエアAY62便にてヘルシンキへ、翌日3:30到着
11月6日 (月)	9:25  午後	ヘルシンキ空港  ウィーン市	入国手続き、フィンエアAY1471便にてウィーン空港へ、10:55到着 ウィーンの街中見学、在オーストリア日本国大使館を訪問、バルヴェデーレ宮殿や庭園を見学、ベルンドルフ市へ移動、ホストファミリーと対面、ホームステイ開始
11月7日 (火)	午前  午後	ベルンドルフ市 と近郊	ギムナジウム校で授業参加 ベルンドルフ市役所でルンプラー市長と面会、クレメスベルク展望台を見学、クレメスベルク教育研究施設を見学、搔子の博物館を見学
11月8日 (水)	午前  午後	ベルンドルフ市 と近郊	ギムナジウム校で授業参加 グーグルツィプフ展望台を見学、市民劇場を見学、スティルクラッセン(小学校)を見学、マルガレーテン教会を見学
11月9日 (木)	午前  午後	ベルンドルフ市	ギムナジウム校で授業参加 大迫広場を見学、ヴェーアベアを見学、ギムナジウム校で歓迎式に参加、バンツェンベック鍛冶屋を見学
11月10日 (金)	午前  午後	ウィーン市	シェーンブルン宮殿を見学 シュテファン大聖堂を見学、タイムトラベルウィーンを見学
11月11日 (土)	終日	ベルンドルフ市 及び近郊	ホストファミリーデー
11月12日 (日)	終日	ベルンドルフ市 及び近郊	ホストファミリーデー
11月13日 (月)	7:15  11:40  17:55	ベルンドルフ市  ウィーン空港  ヘルシンキ空港	ギムナジウム校で集合、ホストファミリーと別れ、バスにてウィーン空港へ フィンエアAY1472便にてヘルシンキ空港へ、15:10到着 フィンエアAY61便にて羽田空港へ
11月14日 (火)	14:15  17:56  20:31	羽田空港  東京駅  新花巻駅	羽田空港到着、入国手続き、東京モノレールとJR線にて東京駅へ、16:30到着 はやぶさ107号にて新花巻駅へ 新花巻駅に無事到着、解散式後、帰宅

## アメリカ合衆国バーモント州ラットランド市派遣日程

派遣期間： 令和5年10月26日から11月5日（10日間の予定のところ、米国で火山噴火にて1日延長）

月日・曜日	時間	場所	内容
10月26日 (木)	10:20	新花巻駅	やまびこ56号に乗り東京へ、13:24到着
	14:03	東京駅	成田エクスプレス31号にて成田空港駅へ、14:58到着
	17:00	成田空港	出国手続後、ユナイテッド航空UA0078便にてアメリカへ
	日付変更線通過		
	16:30	ニューアーク・リバティ空港	ニューアーク・リバティ空港到着、入国手続き、国内線へ乗換
20:59	ニューアーク・リバティ空港	ユナイテッド航空UA3444便でバーリントン空港へ、22:30到着	
	23:00	バーリントン市	バーリントン市内のホテルへ移動し、ホテル泊
10月27日 (金)	10:10	バーリントン市	バーリントン市内のホテルを出発しラットランド市へ
	午後	ラットランド市	ラットランド高校(RHS)を訪問、学校と授業見学、ランタン作り、RHSでホストファミリーと対面、ホームステイ開始
10月28日 (土)	午前	ラットランド市	ファーマーズマーケット訪問し
	午後		ハンロンさん宅でバーベキュー、ハロウィンパレード参観
10月29日 (日)	終日	ラットランド市	ホストファミリーデー
10月30日 (月)	午前	ラットランド市	教育委員会・消防署・市役所訪問、ワンダーフィートキッズミュージアム訪問
	午後		ノースウェスト小学校訪問、チャフィーアートセンターでペインティング体験
10月31日 (火)	午前	ラットランド市	ラットランドミドルスクール訪問、見学、授業に参加
	午後		キルティング体験、トリック・オア・トリート体験
11月1日 (水)	午前	ラットランド市 及び近郊	RHS訪問、授業に参加、スタッフオードテクニカルセンター見学
	午後		ディアリープハイクでトレイルハイキング、コミュニティナイト
11月2日 (木)	午前	ラットランド市 及び近郊	ジョーンズドーナツ&ベーカリー訪問、プロクター大理石博物館・カ
	午後		バードブリッジ見学、ラットランドカウンティ動物愛護団体見学 市内見学、ホストファミリーと別れバーリントン市へ移動、ホテル泊
11月3日 (金)	6:00	バーリントン空港	空港へ移動し、ユナイテッド航空UA0581便にてニューアーク・リバティ空港へ、7:24到着
	11:25	ニューアーク・リバティ空港	火山噴火の影響によりユナイテッド航空UA0079便にてデンバー空港へ、14:23到着
	17:00	デンバー空港	ユナイテッド航空UA0079便にて成田空港へ
	日付変更線通過		
11月4日 (土)	22:38	成田空港	成田空港に到着、入国手続き、JR線とタクシーにて千葉市内のホテルへ移動し、ホテル泊
11月5日 (日)	8:00	京成千葉駅	ホテルを出発し、京成千葉線とJR総武線にて東京駅へ、9:00頃到着
	10:36	東京駅	やまびこ57号にて新花巻駅へ
	13:41	新花巻駅	新花巻駅に無事到着、解散式後、帰宅

## アメリカ合衆国ウィスコンシン州クリントン村派遣日程

派遣期間： 令和5年10月26日から11月4日（9日間の予定のところ、航空機トラブルにて1日延長）

月日・曜日	時間	場所	内容
10月26日 (木)	10:20	新花巻駅	やまびこ56号に乗車し東京へ、13:24到着
	14:03	東京駅	成田エクスプレス31号にて成田空港駅へ、14:58到着
	17:00	成田空港	出国手続後、全日空NH12便アメリカへ
日付変更線通過			
	14:55	シカゴ・オヘア空港 クリントン村	シカゴ・オヘア空港到着、入国手続き クリントン村へ移動、ホストファミリーと対面、ホームステイ開始
10月27日 (金)	午前 午後	マディソン市	マディソン市へ移動、Henry Vilas 動物園を訪問 ウィスコンシン州議会議事堂を訪問、見学
10月28日 (土)	終日	クリントン村 及び近郊	ホストファミリーデー
10月29日 (日)	終日	クリントン村 及び近郊	ホストファミリーデー
10月30日 (月)	終日	クリントン村	ホストスチューデントとクリントン中等・高等学校で授業を受け
10月31日 (火)	午前	クリントン村	クリントン中等・高等学校で花巻紹介プレゼンテーションと現地の生徒と交流
	午後		クリントン小学校を訪問、見学
11月1日 (水)	終日	ミルウォーキー市	ホストスチューデントと共にミルウォーキー市へ移動、ミルウォーキー博物館を見学
11月2日 (木)	6:45	クリントン村	ホストファミリーと別れ、シカゴ・オヘア空港へ移動、9:00到着
	14:00	シカゴ・オヘア空港	機械トラブルにより出発が遅れ、全日空NH11便にて成田空港へ
日付変更線通過			
11月3日 (金)	18:35	成田空港	成田空港に到着、入国手続き、バスにて羽田空港第3ターミナル周辺のホテルへ移動し、ホテル泊
11月4日 (土)	6:10	羽田空港第3ターミナル駅	ホテルを出発し、東京モノレールとJR線にて東京駅へ
	7:56	東京駅	はやぶさ103号にて新花巻駅へ
	10:36	新花巻駅	新花巻駅に無事到着、解散式後、帰宅

## 成果発表プレゼンテーション資料

# ホットスプリングス市





## Shiori

私は南城中学校2年の伊藤史織です。

私の研修テーマは食べ物の違いを調べることです。

アメリカでの食べ物ですが、事前に調査していたとおりハンバーガーやポテト、チキンなど油を使った物が多くありましたが想像以上にボリュームがありました。味は日本と変わらずとてもおいしかったです。中でも私が行ったお店ではハンバーガーの中の具を自由に選ぶことができ、とても大きく食べごたえがあるおすすめのお店を紹介します。お店の名前は「スペリオール・バス・ハウスブリューワリー」です。

また朝食ではパンやシリアルがほとんどで、日本の主食であるコメはほとんど食べることはありませんでした。日本とは生活面や食文化の違いがたくさんあると感じました。

現地での研修では最初、積極的に話を聞くことがうまく出来ませんでした。ホストファミリーと数日間過ごし、もっと話したいと思うようになり自然に英語でコミュニケーションをとるようになり最後の日は帰るのがさみしくなりました。とても充実した9日間でした。



# Hirona

私の研修テーマは、アメリカやホットスプリングスの食事についてです。

私たちの普段の食事とはどんなところが違うのか、実際に行ってその食事を体験したいと思いました。

実際に現地に行ってみると、ファストフードが多かったと感じました。学校では、給食のかわりにカフェテリアがあり、ハンバーガーやフライドチキン、ピザなどいくつかのメニューの中から自分で好きなものを選んで食べていました。

ホストファミリーの家では、ホストマザーが毎日いろいろな料理を作ってくれました。特にミートボールとフレンチトーストがおいしかったです。

今回の研修を通して、たくさんのことに挑戦することができました。初めての海外に、英語での会話、ホームステイなど、初めてのことに挑戦しながらとても楽しく過ごすことができました。この経験を活かし、これからもたくさんのことに挑戦していきたいと思います。

また、ホストファミリーなどお世話になった方々に英語で伝えられなかったことがたくさんあります。なので、これからも英語の勉強をたくさんして、自分の思いを伝えることができるように頑張ります。



# Yosuke

こんにちは、僕は宮野目中学校の高橋陽輔です。

これから、僕がアメリカに行ってどのように成長したかをお話しします。

自分が成長した所は、「相手への意思表示ができるようになったこと」と「英語の聞き取り力が少しいた」です。

相手への意思表示については、アメリカに行く前はあまりちゃんとしなかったです。例えば、「どこ行きたい」、「何食べたい」などの質問に対して、「なんでもいい」みたいに、うやむやにして返すことが多かったです。しかし、アメリカで出会った人たちは何にでもハッキリと彼らの思っていることを伝えていて、自分も質問をされた時にちゃんと意思表示をせざるを得なくて、やっていくうちに自然とできるようになりました。

英語の聞き取り力はホストファミリーと過ごすうちに自然と身につきました。本場の英語は英検や授業で話すスピードとは比べ物にならないほど速かったです。初日は本当に聞き取れなくて無理に考え込んで英語を聞いていました。しかし三日目あたりから「単語単語を聞き取るより、その人の動き、今このタイミング、この場で何を言おうとしているのか」を段々重視するようになり、そしたら何を言っているのかが少しわかりました。また、段々と英語のスピードにも慣れて来てより長い英語も大体ですが聞き取れるようになりました。要は慣れでした。

アメリカに行くことが出来たおかげで、自分は下手だった「意思表示」「聞き取り」どちらも自信を付けて帰ってくることが出来ました。他にも学んだことは多いですがここでは話さきれないです。英語の勉強をもっとやって、もし再びアメリカに行く機会があったら、スマホの翻訳機能をあまり使わずに自分の力で会話してきたいです。自分にとって忘れられない素晴らしい体験になりました。



# Kamui

花巻北中学校2年の千葉カムイです。

僕のテーマは建物です。

ホットスプリングスの建物は主に木造、鉄骨造、コンクリートで作られており、地域の文化である温泉をモチーフにした建物なども多々ありました。私のおすすめスポットは温泉などが多い中央通りです。そこにはアメリカを思わせる洋風な広々とした建物、ストリートアートなどがたくさんあります。なかには温水が出る噴水がありとても暑かったです。おすすめは教会です。日本にはあまりない神秘的な雰囲気を楽しむことができます。僕が行った教会の窓に使用していたステンドグラスなどもとても美しかったです。このような文化を象徴する建物がたくさんある街並みを見るのはとても楽しかったです。お土産や食べ物もかえる場所もあるので是非機会があったら行ってみてください。アメリカに行ってよかった所は積極性と会話力の大切さです。海外派遣に協力してくれた方々ありがとうございました。



Reika

こんにちは！私は宮野目中学校二年の米倉怜花です。私は、ホットスプリングス市で見た自然について話します。ホットスプリングスはどこも紅葉がとてもきれいでした。

私のホストファミリーの家は、周りが林や森のような感じになっていてきれいな紅葉が毎日見られました。ホットスプリングスには、国立公園や展望台のようなものがあり、そこからホットスプリングスの自然を堪能することができました。空気が澄んでいて、気候条件にも恵まれているから美しい自然が生まれているのかな、と思いました。そのような美しい、素敵な自然が感じられるホットスプリングス市に、私は今回の海外派遣で行くことができ良かったです。また行きたいと思います。

## ベルンドルフ市





東和中学校2年、梅木聖です。

私は現地でお世話になった方々について話したいと思います。まず、通訳の一色さんです。一色さんがいなければ、なにも分からずじまいでした。みんながみんな英語を話せるという訳ではないので、とても助かりました。ベルンドルフやウィーンについて、インターネットには載っていない情報など聞くことができました。オーストリアについて深く知ることができました。

次に、交流協会の会員のみなさんです。唯一の若手、クリスティアンさんです。髪型がモヒカンなので少し怖かったのですが、話しやすくフレンドリーな方でした。ヨゼフ会長にはお出迎えからお見送りまで私達のことを見守ってくれました。会長という偉い立場の方ですが、親しみやすくてみんなのおじいちゃんのような存在でした。

ギムナジウム校の先生方もです。私達ができるように英語で、さらに砕いて説明してくれました。公用語ではない言語を使うのは大変なので、ありがたみを感じました。

他にも、行く場所行く場所でたくさんの方にお世話になりました。もちろん、一番はホストファミリーです！出発から帰ってくるまで同行してくれていた引率の方々にも感謝感激です。

やはり一人ではできないこともあったので、周りにたくさん助けられました。なので、相手が困っていたら自分が助ける、助け合うことが大切だと学びました。



宮野目中学校2年、岡本來海です。

初めに、私はオーストリアの伝統料理を紹介します。

オーストリアの伝統料理のひとつのシュニッツェルは日本で言うトンカツのようなもので、  
仔牛肉や豚肉、鶏肉など色々なお肉で作る料理でとても美味しいです。

次にザッハトルテという、チョコのケーキにチョコでコーティングしたデザートを紹介します。  
無糖の生クリームを甘いザッハトルテに添えて食べると甘さが引き立ってとても美味しいです!!オーストリアで2回か3回ほど食べました。それだけで人気だということが分かりました。機会があったら普通のチョコケーキとはひと味違うザッハトルテを本場で食べてみてください。

この研修を通して私は何事にもチャレンジするところが成長できたと思います。失敗や間違いを恐れずとにかくやってみようという思いで色々なことに挑戦しました!

そして、国は違っても思いやる心が大切だなと思いました。また、改めて日本食は誇れるものだし日本は安全だなと思いました。この10日間で私は海外への視点が180度変わりました。

この経験は、必ずこれからの私たちを変え、役立つと思います。海外派遣事業に関わってくださった方々、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

## シェーンブルン宮殿

ウィーンについて

花巻北中学校2年 菊池蒼海

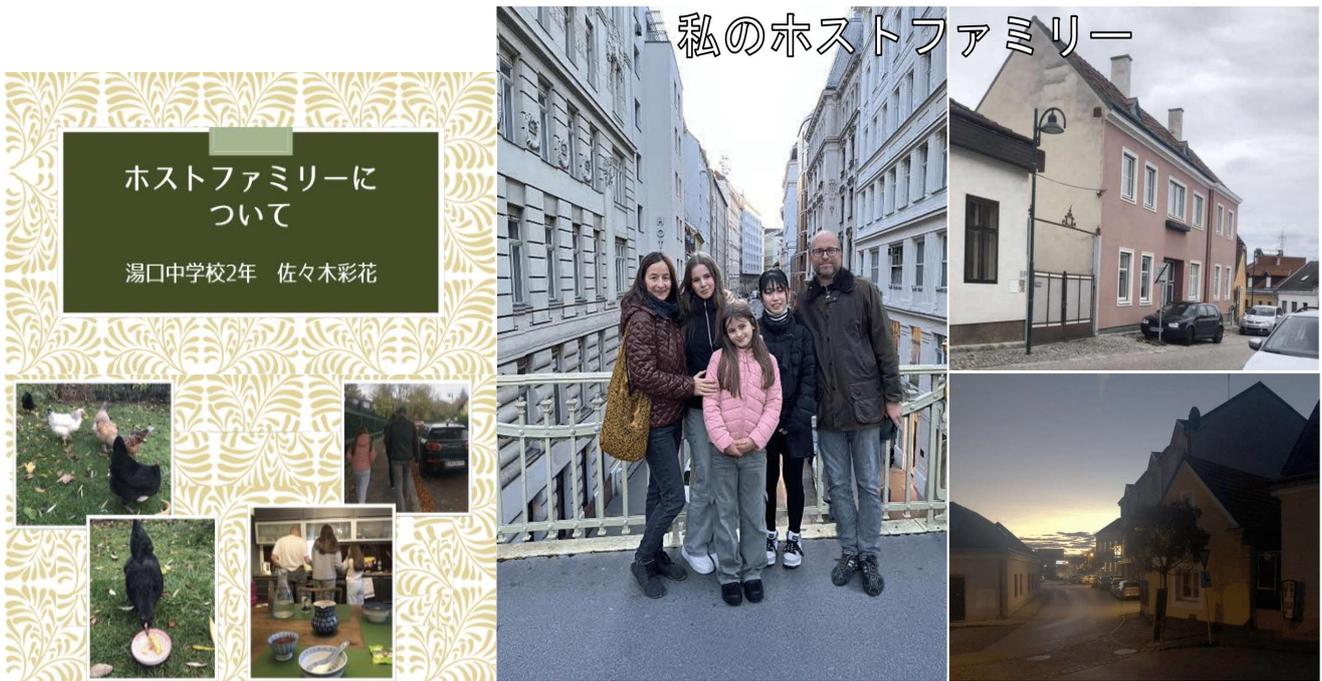


花巻北中学校2年、菊池蒼海です。僕はウィーンについて話します。

ウィーンで特に印象に残っていることは、2つあります。1つ目は、シェーンブルン宮殿に行った際のオーストリアに関する見学です。ここでは、オーストリアに関する歴史やオーストリアの偉人がしたことなどを知ることができました。オーストリアの偉人達が、どのようにして国を作っていたのかなどを知ることができました。昔のものが、そのまま残っていて、その時食べていた食事なども見ることができました。

2つ目は、ウィーンの街で見た景色です。日本では見ることの出来ない景色を見ることが出来ました。特に印象に残っているのは、街で馬車が使われていることです。路地や街中で主に観光客向けに使われていました。また、馬車と街並みがとても合っていて綺麗でした。価格は60分約19,000円でとても高く、乗ることは出来ませんでした。

この体験を通じて、僕が今後に生かしたいことは、この経験を周りに広め、ベルンドルフ市との交流関係を絶やさないようにしていくことです。



## 私のホストファミリー

### ホストファミリーについて

湯口中学校2年 佐々木彩花

湯口中学校2年、佐々木彩花です。

私はホストファミリーと過ごしたことについて発表します。

私のホストファミリーは、道路沿いの大きなピンク色の家に住んでいます。変わった外観の家で昔そこでワインを製造し販売していたそうです。ホストファミリーはもともとベルンドルフに住んでいたわけではなく数年前にウィーンから引っ越してきたんだそうです。その話をしているときに「私たちはウィーンからここに引っ越してきてよかった。なぜなら貴方に会えたから」と言ってくれたときは本当に嬉しかったです。

私は朝学校に行く前にホストシスターたちと鶏に餌をあげに行きます。まずは朝ごはんの残りの野菜や果物を持って外に出ます。外に出たら向かい側の家から鶏の餌をとりスコップで計量し専用のコップに入れます。それを鶏の餌用の皿に入れ合図を出すと一斉に鶏たちがこちらにかけてきます。とっても可愛いチキンズでした。

私はホストファミリーと一緒にいてその家の当たり前の日常やホストファミリーの優しさを感じることができました。



宮野目中学校2年、駿河桜です。

私は、オーストリアの建築物についてご紹介します。

今回ご紹介する建築物は、シュテファン大聖堂です。この建築物は、モーツァルトの結婚式や葬儀が行われた聖堂としても知られています。

シュテファン大聖堂の外装はゴシック様式で、内部の祭壇はバロック様式であるそうです。初めてシュテファン大聖堂を見た時は、ハリーポッターの世界にいるような感覚でした。この日は、天気が曇りで、より一層ハリーポッターのホグワーツにいるようで楽しかったです。あの時のワクワクは今でも忘れられません。

私にとって、今回の海外派遣は自分の伝えたいことが上手く言えなかったりなどの様々な場面で苦労がありましたが、諦めずジェスチャーなどをし上手く伝えられた時は自分の成長が感じられとても嬉しかったです。

今回の海外派遣で、学んだことや、苦労したことなどを幅広い方たちに伝えていき、この海外派遣が途切れず、これからも続いていくことを願っています。



花巻北中学校2年、三好裕心です。

僕は派遣中に見学したベルンドルフ市の学校について発表します。

僕達が授業に参加したギムナジウム校は、日本で言う小学5年生から高校3年生までが通っています。そのためとても人数が多く、いろんな子達がありました。この学校は生徒が気軽に先生に話しかけていて、先生と生徒の距離が近く感じました。そして日本の学校よりも自由で、特に美術の授業時間にそれを感じました。机に座り、絵や物を作るのではなく、外でテーマに沿って写真を各グループで撮るという内容で、みんなすぐに思いつき、物などを自由に使い、発想豊かに写真を撮っていました。それぞれのグループの子達とすぐに仲良くなることができ、とても楽しかったです。

次に、見学した小学校のスティルクラッセンは、市の産業の発展に大きく貢献したアーサー・クルップ氏が建てた学校で、1つ1つの教室の建築様式が異なりました。子供達が様々な異文化に触れられるようにクルップ氏が設計させたもので、全ての教室が博物館のようでした。

ギムナジウム校の生徒たちと交流し、日本人以外と話したりすることで、コミュニケーション力がアップしたり、もっと話したいと思うようになりました。

# ラットランド市





石鳥谷中学校の佐々木和奏です。私は訪問したラットランド高校についてお話しします。

私が訪れたラットランド高校では、石鳥谷との交流の歴史について全校が大事にしています。先生方も多様性や個性を大切にし、生徒達に合った学習スタイルで行っていて、縛られるものが少なく好きなものを好きなだけ探求し、学んでいました。

専門的な授業では車の組み立てや塗装、林業、溶接、看護、プログラミングなど様々な分野に分かれていました。この高校では1年目で基礎的な要素を学び、2年目で実践的に学んでいました。他の人よりも大学での単位が取れて、就職に有利になるなどの利点がありました。

私は今回の訪問を活かして、今まで以上に積極的に学校行事に参加し、毎日の学習に全力で取り組んでいきたいと思いました。



私は、アメリカのラットランド市に行ってきました。

私は生活の違いを中心にたくさんのことを学んできました。

私が行ったラットランド高校では、花巻とは違い、ハロウィン特有の学校行事が行われていました。例えば、教室のドアをハロウィン仕様にデコレーションし、どのクラスが一番良かったデザインだったのかを決めるコンテストや、ブラスバンド部の人達がハロウィンパレードに参加しながら演奏するというものなどです。私が印象に残ったドアのデコレーションは骸骨やイットのペニーワイズなどで、とても個性があって素敵でした。ブラスバンド部の人達の中にホストスチューデントがいて、パレードに参加した派遣生もいました。

また、ラットランド高校で授業を見に行った時に、生徒が韓国ドラマを見ていたり、立ち歩きしたり、お菓子を食べていても、先生は注意するどころか、先生までお菓子を食べていました。

研修を通して、自分の学校とは違う授業風景や服装などたくさんを知って、国が違うだけでこんなにも違いがあると新鮮な気持ちだったし、そのような学校生活も楽しそうだなと思いました。



### 【ハロウィンについて】

僕は、これからラットランドで経験したハロウィンについてお話しします。

僕は、初めてハロウィンのためにとっても大きなオレンジ色のカボチャでランタン作りをしました。カボチャの皮が硬くて目と口をくり抜くのは大変でした。僕は、怖い表情ではなく笑っている顔にしました。その後、ホストファミリーの家でもランタン作りをして、カボチャの中にろうソクを入れて家の外に飾りました。

ラットランドでは、毎年ハロウィンパレードが夜に行われて、仮装した人たちが、楽器の演奏や車に乗ってパレードしてお菓子を渡して歩いて、お祭りのようにとても盛り上がっていました。

10月31日には、自分たちも仮装して、カボチャが玄関に置いてある家に、トリックオアトリートと言ってお菓子を袋いっぱい貰って歩きました。

ハロウィンというアメリカでの伝統行事に触れ、パレードでは街中がお祭りのように盛り上がっていて、みんなが楽しく過ごすために必要な文化だと感じました。僕も花巻の伝統行事にもっと参加してみたいと思いました。

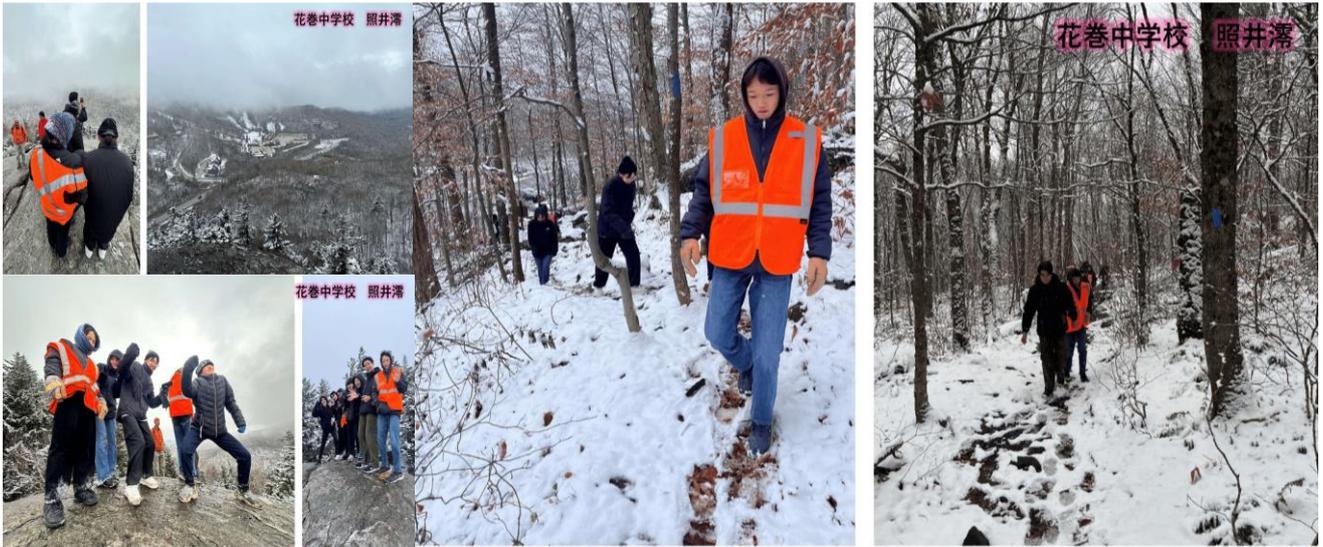


10月30日に行った子ども科学館でみんなと遊びました。この子ども科学館は東京ディズニーランドを作った時に関わった人がデザインに参加した科学館です。

ひさしぶりにたくさんあそんでとても楽しかったです。最後にみんなでかくれんぼをしました。

同じ日に壁画、アート探検をしました。たくさんの大理石でつくられた像があり、壁に絵がかかっていた。町の中のアートを探検してたくさん写真を撮りました。

その絵はどれも個性が豊かでかっこいいです。リアルな絵から不思議な絵、全部文字だけのアートもありました。みんなきっと気に入ると思います。



こんにちは 花巻中学校2年 照井滯です。私はラットランド市近郊で体験したハイキングについて話したいと思います。

私たちは「ディア・リープ・ハイク」をしてきました。ディア・リープ・マウンテンという山に登りました。私たちが行ったときは雪が降っていて、とても寒く、日本より早い時期に降ることに驚きました。思っていた以上に道が険しかったですが、みんなで雪遊びをしながら登りました。ここ通るの！？と驚く道だったので大変でした。頑張って登った先はとてもきれいな絶景でした。立っている場所が急な崖だったので、怖かったですがみんなで今食べたいものを叫びながら沢山写真を撮り、だんだんと楽しくなりました。帰り道は登りより急なので転ぶ人が増えて泥だらけで帰る人が多かったです。

私はこのような体験をして、海外派遣に行く前より「何事にも挑戦できる力」が出来たと思います。いろんなことに挑戦して私は世界の価値観が変わりました。このことから私はもっと世界と交流したいと思いました。これで発表を終わります。ありがとうございました。



こんにちは、東和中学校二年の吉澤亮太です。僕は、ラットランド市で受け入れてくれた、ホストファミリーについてお話します。向こうの全てのホストファミリーは、とても優しくフレンドリーで、僕のホストファミリーは、僕にいろいろな経験をさせてくれました。アメリカにつき、次の日にはホストファミリーと過ごし始めると言うこともあり、僕は緊張して自分から話しかけることができませんでした。そんな僕を見て、ホストファミリーは向こうから話しかけてくれました。それをきっかけに僕はたくさん一緒に会話をしてたくさん一緒に遊びました。向こうの家族は、兄が2人、妹が1人の兄弟構成でよく些細なことで喧嘩をしたり、一緒に仲良くテレビを見たりしていました。僕の家も男3人兄弟なので、似たようなところがあり、国が変わっても変わらない家族という存在を身近に感じることができました。

また自分はこの海外派遣という経験を通して、一歩大人になれたと思います。今度はもっと英語ができるようになって、自分の力を試すような旅をしたいです。

# クリントン村



# Clinton

クリントン  
10.26-11.4





花巻中学校の角館実咲です。

私はクリントンミドルスクールにあった、カフェテリアについてお話しします。

カフェテリアといっても、日本でいう食堂のようなもので、主にランチのときに使用していました。昼ごはんは給食ではなく、自分で好きなものを選んで取るバイキングのような形式でした。ピザやハンバーガー、レタス、トマトなどの野菜、牛乳など、いろいろな種類がそろっていました。このほかに、お菓子などを購入することもできました。日本と違って、自分で食べたいものを好きなだけとって食べられるのいいなと思いました。しかし、好きなものばかり食べて食事が偏ってしまうことも考えられます。その点、私たちが食べている給食は、栄養バランスがよく考えられているので健康に良く、それはありがたいことだと改めて感じる事が出来ました。

このようなクリントンと花巻の違い知ったことで、今まで当たり前すぎて気が付かなかったことに気づけ、自分の知識が広がったのでよかったです。派遣中、英語が上手く伝わらず、自分の英語はまだまだなんだと覚えることが沢山ありました。なのでもっと英語を勉強して次にホストファミリーと会ったときには今回よりもたくさん会話ができるようにしたいです。



私は、花巻とクリントンの食事の違いについて話します。

まず、食べ物自体についてです。基本的には、サイズの大きいもの、ピザやハンバーガーのように一つで食事が完結するものが多くありました。味は、大味で味が濃いと感ずるものが多かったです。そして、何を食べるにもスパイスが入っているのが印象的でした。

次に、食事に対しての意識や考え方です。一番印象的だったのが、「残してもよい」という考え方です。自分が満足すれば食べ終わる文化が一般的でした。また、朝昼は軽く、夜はしっかり食事を楽しむ、という感覚があるように感じました。

クリントンで過ごしてみて、花巻との違いを沢山感じる事ができました。そして日本と違う文化やがい念を知ることで自分の考えも広げることができました。中字生の私にとって、海外に行くということは初めてでしたが、とても貴重で人生が豊かになるような経験でした。

また、この海外派遣で、色々な文化や考えを理解する、受け入れる、ことができるようになったと思います。そこで、自分の考えは固定のがい念でこり固まっていたことにも気づくことができました。この一週間は、あらゆる面で私を大きく成長させてくれました。事業に関わって頂いた皆さん、ありがとうございました。



### テーマ「ハロウィン」

ジャック・オー・ランタンを作りました。お店も家も学校も町中がハロウィンの飾りでにぎやかな雰囲気でした。私の家では前日に友人たちと日本の2、3倍あるカボチャをスプーンでくり抜き、ジャック・オー・ランタンを作りました。中に明かりを灯し、外に飾りました。各々の個性が出ている素敵なものができました。

当日はみんなで仮装しました。ホストシスターのジェイダと一緒に学校へ登校すると、バズ・ライトイヤー、炭治郎、禰豆子、ホットドッグなどの仮装をした生徒がいました。校長先生はミニオンでした。全員が仮装しているわけではなく、私が見た限りでは約3分の1ほどでした。学校が終わると、友だちの家にお邪魔し、みんなで準備をしました。私は魔女になりました。全身真っ黒で向かったのは、知らない人の家。自分の家の前でお菓子を「ハッピーハロウィン！」と言いながら配っていました。お菓子の袋はすぐにいっぱいになり、寒かったので少し早めに切り上げました。

### ハロウィンを通して感じたこと

老若男女問わずみんなが楽しめる行事で素敵だとハロウィンを通じて感じました。日本のお盆と同じような行事だったことが面白いと思いました。ジャック・オー・ランタンを初めて作り、とても楽しかったです。学校で仮装できることがいいなと思いました。日本にもほほしいです。お菓子を配っていた人たちはみんな優しくかったです。私はクリントンの人たちはすぐに優しさを出せて、はっきりと伝えることができているすごいと思いました。すぐ行動にうつせませんが、私もいいことはどんどんしていきたいと思いました。



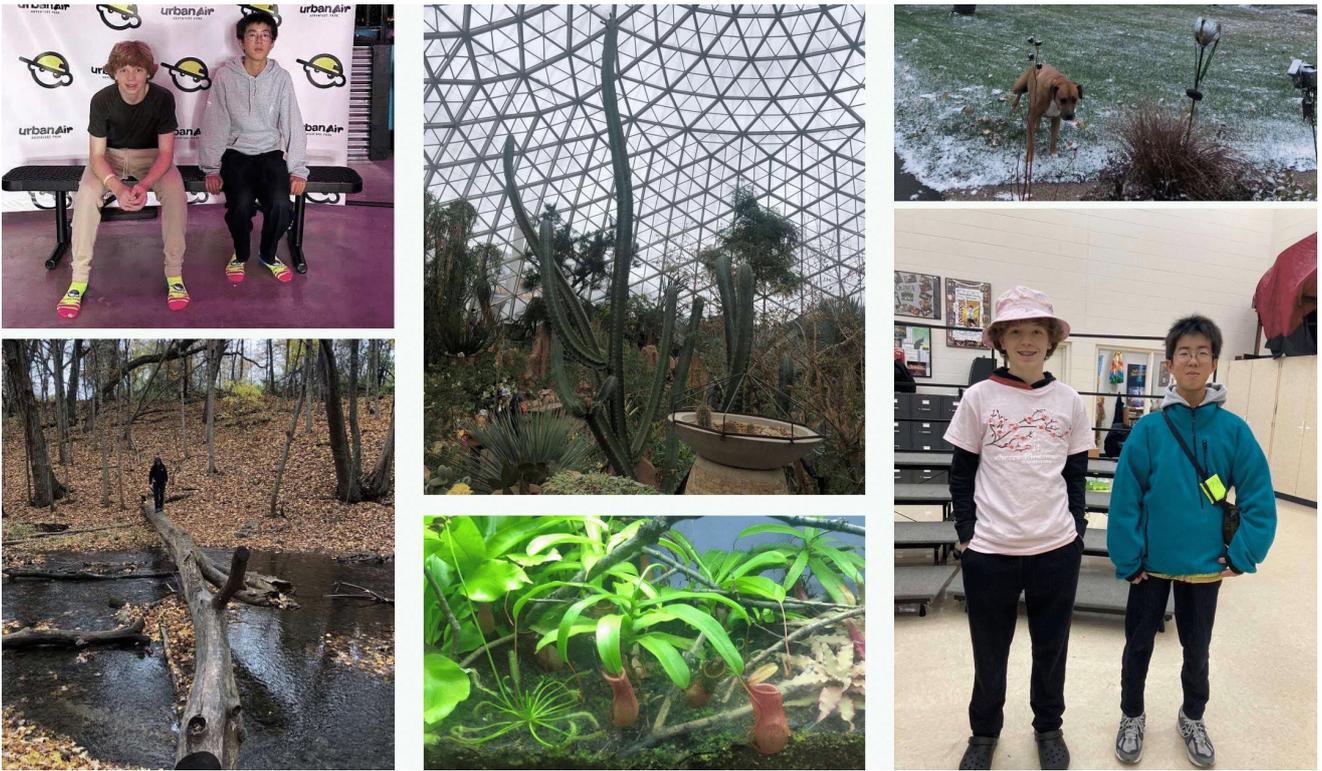
私は、お世話になったホストファミリーと私の家庭での違いを発表します。

最初に話すのは、家庭での食事についてです。私がお世話になったところでは、ホストマザーがご飯を作りキッチンまで自分で取りに行きます。ご飯を取りに行ったら後は席について各自食べ始めます。私の家ではテーブルにご飯を並べて家族みんなで食べるので最初はとても驚きました

次に話すのは家の造りについてです。私がお世話になった家族の家では、ドアが一階にはなくすべての部屋がつながっていました。私の家ではどの部屋にもドアがあるのでドアがないほうが移動しやすくていいなと思いました。

最初は英語が伝わらず帰りたと思ったこともありましたが、相手を困らせたりすることが多く、その分自分の英語が伝わったとき、嬉しくなってその時から意識して会話の中でジェスチャーをつけてみたところ最初よりも私の思っていることが伝わりやすくなってジェスチャーは大切なことだと学びました。

この海外派遣で私は、自分で考えて相手にわかりやすいように話すと言うところで成長できたと感じます。そして、協会の方や家族などに感謝して生活していきたいです。



僕が感じた花巻との自然の違いを発表します。

僕が行った地域は酪農が盛んな自然豊かな場所でした。花巻ではよく見かけるスズメやカラスなどの一般的な野鳥は見かけませんでした。そのかわり、家の周りや町の中でリスをしょっちゅう見かけました。花巻では人前にあまりあらわることがないので驚きました。

また、僕が動植物を好きだと知ったホストマザーが大きな植物園に連れて行ってくれました。そこは「花」「砂漠」「熱帯雨林」の3つのドームに分かれており、私の住んでいる場所では見ることができないたくさんの植物を観察することができました。驚いたのは木のように高いサボテンで、自分の身長何倍もありました。食虫植物をじっくり観察できたのも嬉しかったし、現地でしか見られない植物の多さに衝撃を受けました。

その後ミシガン湖のほとりに自然観察に行きました。ミシガン湖は全世界で5番目に大きな湖で、向こう岸が見えないくらいなので湖というより海のような感じでした。姿は見えませんがウミネコのような鳴き声を聞きました。

現地では雪が降り始めるほど寒かったので植物や野鳥はあまり見かけませんでした。道中に見る木も変わった形だったり、葉が大きかったり、茎が曲がりくねっていたりと、日本では見かけない形のものばかりなのも印象的でした。

このように僕の住む地域と現地とでは、植物の大きさ、形、そして広大な土地やスケールの違いがありました。雄大な景色は想像をはるかに超える素晴らしさでした。

今回僕が見ることができた範囲は一部分でしたが、これからも動植物の生態の違いなどを調べていきたいと思いました。



西南中学校の八重樫愛弓です。私は花巻とクリントンの登下校の違いについて話します。

まず大きな違いは、ほとんどの生徒がバス登校だということです。晴れている日などは歩いて登下校する人もいますが、全体の5パーセントほどだそうです。私の学校にもスクールバスはありますが、バス登校の人はあまり多くないので、それを初めて聞いた時は驚きました。二つ目は、クリントンミドルスクールはクリントンにあるたった一つの中、高等学校なので、沢山のバスがあり、一つ一つに番号が振られていて、すべて同じデザインのバスでした。

一つのバスで沢山の生徒の家に回るので、登下校だけでも20分近くかかりました。運転は日本と比べたら少し荒かったし、スピードが出ていた気がします。運転手さんは乗る度に生徒とコミュニケーションをとる明るくて優しい人でした。

また、登下校の際にバスになる時はほとんどの生徒が、親と犬とバスの近くまで来ていました。スクールバスを使うことで、親の負担が減ったり、安心して登下校ができたり、いい点が沢山あるということが分かりました。

私はクリントン村に行ったことで今まで知らなかったことを学べ、新しい考え方を見つけることができよかったです。なので、この事業に携わってくれた方々に感謝したいです。

# 派遣研修報告書

# ホットスプリングス市派遣研修報告書



令和5年11月6日～11月15日

# ホットスプリングス市派遣

## 派遣生

南城中学校	伊藤 史織
花巻中学校	坂本 ひろな
宮野目中学校	高橋 陽輔
花巻北中学校	千葉 カムイ
宮野目中学校	米倉 怜花

## 引率

南城中学校 教諭	葛西 祥子
花巻国際交流協会 事務局員	多田 千華



## 1 研修テーマ

学校生活や日常生活が日本とどのように違うのか、またアメリカではどんな食べ物があるかについて調べたいと思いました。

## 2 テーマ設定理由

海外経験のある塾の先生から日本と海外の違いについて事前に色々聞いていました。

特に私は学校生活や授業スタイルの違いについて興味を持っていたので研修のテーマにしました。また、私は食べることが好きで食文化にも興味がありこれもテーマの一つとしてあげました。



## 3 テーマについての事前調査

インターネットで事前に調査

- ・スマートフォンやお菓子などを持って学校へ行っている様子があった。
- ・ハンバーガーやポテト、ピザなどカロリーが高い物がたくさんある事が分かった。

## 4 研修報告

私は、アメリカのホットスプリングス市の小中高の学校にそれぞれ行き研修をおこなってきました。その中でも一番心に残ったのは、ホットスプリングス自治区学校の日本で言う高等学校での見学です。生徒はみんなとてもフレンドリーで明るく私たちにとっても優しくしてくれました。校舎はとても大きく1つ1つの部屋も広くおどろきました。

<学校生活と授業スタイル>

学校へのスマートフォンの持ち込みは、事前に調査していたとおりほとんどの生徒が持ってきていました。授業中での使用はなく休み時間に利用していました。

授業で日本と違うところは、黒板はなくホワイトボードや大型のモニターに映し授業していました。教科書を使用した授業はほとんど見受けられず、日本のように先生が黒板に書いたことをノートに書き写すこともありません。

タブレットで授業を受けそのタブレットに自分で打ち込みながら書き込むようなスタイルの勉強方法でした。

私はタブレット1台で学校の授業を受けるスタイルが自分に合っていると思いました。教科書や辞書を忘れることもなく、今この世の中では覚えなければならない事柄や聞きなれないIT用語なども多くあります。

辞書で調べることも必要だと思いますが、インターネットでの検索は時間短縮などにも繋がり効率が良いのではと



思いました。

他には学校に制服がなく毎日私服での登校で、女の子は化粧もしており自由という点ではうらやましいと思いました。けれど毎日着る服を選ぶのはちょっと大変かなとも思いました。

#### <食べ物>

こちらにも事前に調査していたとおり、学食は「ハンバーガーやピザ、ポテト」など油で揚げた食べ物が多くありました。バイキング形式になっていて、好きな物を好きなだけ取れるようになっていました。

学校内にカフェテリアがあり、昼食時間になるとみんなが集まり好きな物をとって席に座り会話をしながら楽しく食べていたのが印象的でした。

ホストファミリーの家の朝は、日本の主食であるコメはほとんど食べることがなくパンやシリアルなどの軽めの朝食がほとんどでした。ホストペアレンツは仕事の関係で一緒に朝食を食べることは出来ませんでした。ホストグランマが毎日私とホストシスターのために朝食を準備し、学校に行く際にタンブラーにコーヒー入れて持たせてくれました。

夕食は、毎日ホストマザーの手作りでホストファミリー全員が集まって一緒に食べます。メニューの一例として挙げると、皮つきの蒸したじゃがいもにバターをのせた日本で言うジャガバターやチキンカツ、ワンタンのようなモチモチした食感の具が入ったクリームシチュー、ミートソース味のショートパスタなどを食べました。



#### <ホストファミリー>

ホストファミリーのお家に行ってまず感じたことは広大な敷地です。ホストファミリーは犬を飼っており、家の周りは柵で囲まれ広い庭で毎日犬が自由に駆け回っているため犬の散歩をすることが出来ませんでした。ドッグランが庭にある感じが、アメリカの土地は広大だと思える光景でした。

自宅の部屋の構造が日本とは全く違い、ベッドのある各部屋にトイレ、シャワー洗面台があることにおどろきました。調理と食事をする以外はすべて各部屋で生活できてしまうことです。

バスタブがなくそこも日本との違いがありました。



お風呂好きの私にとって毎日シャワーだ

だったのでちょっと疲れがとれにくいと感じました。全身が温まるお風呂が恋しくなりました。週末にはホストファミリーと一緒に国立公園やダウンタウンに行きました。ホットスプリングス市は、花巻市と同じく温泉があり国立公園内には上流から熱いお湯が流れ触れることが出来るスペースがありました。今回の研修では残念ながら温泉に入る時間がなく地元花巻の温泉との違いなどを調べることが出来ませんでした。機会があればまたこの地を訪れ温泉に入りたいです。

町はクリスマス一色にイルミネーションが飾られていました。メインストリートには雑貨や洋服などが飾られたお店がたくさん並び、とてもわくわくするような場所で、あっという間に時間が過ぎ去りました。花巻では見る事のない街並みで温泉の噴水などもありすてきな場所でした。

## 5 まとめ

今回の研修テーマである学校生活や日常生活・食文化の違いですが、学校生活ではある程度自由な部分がありのびのびとした学校環境で授業を受けている印象でした。日本は規律が重視され学校における集団生活である程度我慢など、忍耐力が自然に身につけているのではと感じました。

生活や食文化では、お風呂ではなくシャワーでの生活、主食が米ではなくパンの食事など、もともとの生活様式に違いがありました。これは住んでいる地域の生活習慣や風習、価値観の違いがあるものだと感じました。特にお風呂はシャワーと違い、体が温まり心身をリラックスさせる効果があります。日本人の主食であるご飯のおいしさなど研修を通して日本の良いところが沢山あると感じました。

また初めはうまく話せるかわからない不安と、日本とは違う生活面で積極的に話すことが出来ませんでした。ホストファミリーと数日間過ごしもっと話したいと思うようになり、自然と英語でコミュニケーションがとれました。身振り手振りや表情など顔を見て話し、自然とお互い笑顔になり毎日が楽しくわくわくした気持ちになりました。

この研修で変わったことは、授業で分からないことや詳しく教えてほしい時など積極的に質問し話しが出来るようになってきた感じがします。

今回は花巻市の代表としてこの海外派遣研修に行かせていただき本当にありがとうございました。今後、私も海外との交流の懸け橋の一員となれればと思います。

## 1 研修テーマ

私が派遣研修で調べたいことは、アメリカやホットスプリングスの食事についてです。日本とアメリカでは、料理や食事に使う道具も違うので、現地に行ってその食事を体験したいと思いました。

## 2 テーマ設定理由

食事は国ごとに料理や道具などが違いますが、日本とはどんなところが違うのか気になったからです。普段は、どんな料理を食べているのかも調べてみたいと思いました。

## 3 テーマについての事前調査

インターネット「日本とアメリカの食事のちがい」について調べたところ

- ・アメリカは多様な民族が移民することにより発展してきたため、さまざまな国の食文化と先住民の食文化とが融合していったということが分かりました。
- ・日本とアメリカの食事のちがいは主食や手間、食事形態などにあるそうです。

## 4 研修報告

現地での食事は、ハンバーガーやフライドチキン、ピザ、ポテトなどのファストフードが多かったです。

お昼ご飯や、夜にホストファミリーと外食をしたときのほとんどがファストフードでした。日本のファストフードと比べると、サイズが大きくハンバーガーの具がパテのみで油が多く日本のほうが健康的だなと感じました。

学校には給食のかわりにカフェテリアがありました。日本でいう食堂のような感じで、いくつかのメニューの中から自分で好きなものを選ぶ形でした。アメリカにはいろいろな国の人、ベジタリアンなどの人がいるため、自分の好きなものを選んで食べられるようになっているのかなと思いました。

日本の給食はメニューが決められていますが、私は苦手な食べ物がたくさんあるので、自分で選んで食べることができるこのスタイルがすごく自分に合っているなと思いました。

ホストファミリーの家では、ホストマザーが毎日いろいろな料理を作ってくれました。主なメニューはパンやパスタなどを食べていて、料理にかかる時間は一時間弱でした。私はご飯よりもパンが好きで、家でも朝ごはんはパンを食べていたので、アメリカでの食事が思っていたよりも合いました。

食事をするときは、ホストファミリーみんなで集まって食べるときもあれば、時間によってばらばらで食べるときもありました。私の家では家族そろって必ずご飯を食べるので、不思議だと感じました。みんなで集まったときは、一日の出来事や学校であったことを話していました。私の家でも今日の出来事を話すことが多いので、その部分が似ていると感じました。



休日には、ホストマザーとホストシスターとサルサソースを一緒に作りました。サルサソースとは、スペイン語で「ソース」という意味で、アメリカ南西部で使われることの多いソースです。

学校のカフェテリアにも、タコスなどのアメリカ南西部の料理がありました。もともとアメリカ南西部発祥の料理もアメリカで一般的に食べられるようになっていくと聞きました。

日本では、まだタコスなどを食べる機会はほとんどありませんが、中華や韓国などのアジアの料理はブームもあり主流になってきました。

アメリカでもご飯が食べられるところもありましたが、実際に食べると日本のお米はすごくおいしいと改めて感じることができました。

私がアメリカで一番おいしかったと感じた料理は、ホストファミリーが作ってくれたミートボールとフレンチトーストです。どちらも、日本でよく食べられるような味付けでした。

ミートボールのサイズが、私の知っているミートボールの倍の大きさでとても驚きました。フレンチトーストには、粉糖やメープルシロップ、果物をのせてくれました。まるでお店で出てきそうな見た目で、おしゃれだなと思いました。ホストファミリーは、フレンチトーストに大量のメープルシロップをかけて食べていました。



## 5 まとめ

食べ物、その大きさ、味付けなど、日本とは違う部分を実際に体験しながら見つけることができました。普段の食事は、ホストファミリーが日本でもよく食べられるような料理もたくさん作ってくれました。

今まで見たことがなかった料理も作ってくれて、いろいろな料理に挑戦することができました。これだけバラエティ豊かな料理があるのは、いろいろな国の人がアメリカに住んでいるからだと感じました。

ホストファミリーの家は私の家よりも大きく、家のつくりや普段の過ごし方はほとんど同じでした。自分の家と違う部分は、家の中で靴を履いたまま過ごし、シャワーとトイレが一緒というところで、なかなか慣れることができませんでした。ホストファミリーの趣味は DIY で、家の中にあつた暖炉やベランダはホストファミリーの手作りと聞き、すごく驚きました。

言葉も思うように通じない中、ホストファミリーと一緒に UNO や映画やアメリカンフットボールの試合を観るなど、私も楽しめるように考えてくれました。そして私が答えやすいように、「yes」か「no」で答えられるような質問やゆっくり話してくれて、すごく嬉しかったです。一緒に過ごしてくれて、感謝の思いでいっぱいです。

今回の派遣研修を通して、たくさんのことに挑戦することができました。初めて海外や、ホームステイ、英語での会話など、緊張すること不安になることもたくさんありました。けれど、ホストファミリーや訪問した学校の生徒や先生方のおかげで、とても楽しい7日間を過ごすこ

とができました。

言葉が通じなくても、思いや感情を伝えることができると実感することができました。この経験を活かし、これからは何事にも全力で挑戦していきたいと思います。またこの研修で、英語をもっと学びたいと強く思うようになりました。派遣中は英語がまったく聞き取れず、翻訳だよりになることが度々あり「あの時こう言っていればよかったな」と後になってから思うことが多くありました。

もう一度ホットスプリングスに行き、ホストファミリーともう一度話をしたい。自分の思いや感謝などの伝えたいことを自分の声でしっかり伝えたい。これらの夢をかなえるために、私はこれからも英語の勉強をたくさんして、英語力を高めることができるようがんばります。

## 1 研修テーマ

アメリカのお菓子や普段の食事について学ぶ。  
日本とどういった違いがあるのかを調べる。

## 2 テーマ設定理由

食べることが好きだから。また、以前日本のお菓子が外国で売れているとテレビで知り、お菓子のビジネスに興味を沸かしたから。

## 3 テーマについての事前調査

お菓子について

- ・全体的にしょっぱいものが多い。
- ・チーズ風味の物が多い。
- ・味が濃い。

食事について

- ・朝ごはんを日本のようにしっかり食べず、シリアルやパンケーキなどシンプルなものを食べる。
- ・肉を食べることが多い。

## 4 研修報告

<お菓子について>

アメリカのお菓子は、日本のお菓子とは別物であった。見た目も味も何もかもが違った。日本のお菓子は、『小さい袋に少ない量。商品のパッケージの見た目から想像できる味で、濃すぎない。』といった物が多い。

しかし、アメリカのお菓子は、袋は大きく量はとても多い。袋が小さくても中にぎっしり詰まっているといった感じだ。味は濃く、甘い物（グミ、キャンディー）だったらすごく甘い、しょっぱいもの（ポテトチップス、トルティーヤチップス）はとことんしょっぱかった。素材の味もするが、甘さや塩気の方がかなり強く感じた。ホストマザーのアマンダさんは、日本に4回も来た事があり意外に日本に詳しく、「そこで日本とアメリカのお菓子の違いは何か？」と聞いたら、やはり「taste」と答えた。「日本のお菓子と比べるとアメリカのお菓子は細かい味、香りが無くて雑な感じがする。」との事。

そんなに違うのか！と衝撃を受けたのは確かだった。だが、アメリカのお菓子にも日本に勝る物がある。それは「種類の多さ」だ。

ホストファミリーに連れて行ってもらったダウンタウンにある駄菓子屋さんでは、広さはコンビニくらいだが圧倒的に種類が日本よりも多かった。冗談抜きにお菓子で壁が埋め尽くされているのである。右を見ても左を見てもお菓子まみれ。長い時間ここにいっても飽きないような雰囲気だった。

## <食事について>

アメリカの食事といえば、映画で見るようなでかい肉やハンバーガーを想像するだろう。まさにその通りだった。何から何までデカすぎる。リアルアメリカンサイズ！

### ・朝ご飯

朝ごはんは非常にシンプルな物だった。パンケーキとベーコン、シリアル、トーストとジャムなど事前に調べたものとあまり変わらなかった。普通に日本でも食べられるようなメニューであったが、僕にとっては少し物足りなかった。また、朝からドーナツを食べる時がありそれは流石に起床したての腹には重かった。

### ・昼ご飯

学校ではピザ、ハンバーガー、トルティーヤチップス、スクランブルエッグ、パンが食堂によく並んでいた。かなりガッツリ食べるよりかはほどほどに食べるメニューばかりだった。学生達は家から持ってきたであろうお菓子と一緒に昼ご飯を満喫していた。日本の給食は出てきたものはすべて食べる形式だが、アメリカは好きな物を好きなだけ取って食べるバイキング形式だった。自分はバイキング形式の方が好きだから日本もバイキングになって欲しいなと思った。

ホストファミリーと行った店は二つあり一つ目の店ではフライドポテト、スクランブルエッグ、ホワイトグレービーソースをフライドチキンにかけた物を、二つ目の店ではハンバーガーとサラダを頂いた。ホワイトグレービーソースはなんか甘いようなしょっぱいような、生クリームとバターが混ざったような味だった。

### ・夜ご飯

ほとんど外食に連れてってくれ、家でご飯を食べたのはたった一回だった。

いろんな店に行き、ピザ、どでかい牛肉、ナゲット、メキシコ料理（タコス、トルティーヤチップス、名前は忘れてしまったがピーマン、鶏肉、チーズ、米を和えたもの）それぞれを頂いた。すべてとても美味しかった。しかし、どれも量が多く食べきれないものもあった。一番個人的に美味しかったのはピザで、食べている時にもものすごく幸せだった。メキシコ料理は食べるのが人生初で、味に少し慣れなかったが美味しかった。

家で食べたご飯は、ホストマザーが作ってくれたスパゲッティだ。シンプルにトマトソースだけで和えたもので、お店みたいで美味しかった。

## 5 まとめ

アメリカのお菓子、食事はどれも日本のものとは異なり、美味しい物が多かった。少しではあるがアメリカの「食」を体験する事ができてよかった。研修テーマの「日本とどういった違いがあるのか調べる」について、自分なりに出した日本とアメリカのお菓子と食事の大きな違いは「味」と「食の感じ方」である。

では最初にお菓子について。ホストファミリーのアマンダさんが言っていた「アメリカのお菓子の味が雑」という意味が自分も少し納得できた。先ほども述べさせて頂いたが、やはり甘さや塩気の方が強く感じるのだ。確かに美味しいところはある、しかし個人によって違うかもしれないがずっと食べていると妙に飽きが来てしまうところがあった。

次に食事について。いろんなアメリカンフードを食べさせてもらった。これらは肉を使った料理がほとんどで魚、穀物などは少なかった。日本の肉料理と違って、慣れるのに時間がかかった。ソースなどの上からかける物で食べ進めていたからである。日本はそのまま食べたり、塩だけで食べたり、レモンを少しだけかけて食べたりするが、アメリカは絶対何かをつけたりかけたりして食べていた。そのまま食べることはまずなかった。食材の味を楽しんでいないように感じた。

今回海外派遣に参加させて頂いたおかげで、自分の世界が広がった。ホストファミリーの方々が毎日いろんなところに連れて行ってくださり、見学したそれぞれの学校の生徒さん達が普段の生活を教えてくれたのでアメリカの「普通の毎日」を知る事ができた。

数え切れないほどの素晴らしい経験ができ、毎日が楽しかった。英語はジェスチャーを使いつつ会話したが、意味が伝わらない時はスマートフォンを使った。聞き取りも最初は慣れなかったが最後の方は聞き取れる語数が大幅に増え、ハンドシェイクも覚えた。

これからはもっと英語を勉強していつかまたアメリカに行った時は自信を持って会話できるようになりたい。また、海外派遣事業に関係してくださった花巻市内の方々、先生方、ホストファミリーの方々に感謝の気持ちを忘れず、この沢山の経験を絶対に無駄にしないよう、高校や将来何かの職業についた時に活かしていきたい。

本当に楽しい一週間だった。



1. 朝ご飯



2. 昼ご飯



3. 夜ご飯



4. 駄菓子屋



5. ホストファミリーと私たち

## 1 研修テーマ

外国の建物の外装、モチーフ、内装、家具の特徴、設計の特徴と日本との違い。また海外の建物による日本への影響やアメリカ特有の文化の特徴など。

## 2 テーマ設定理由

将来建築士になりたいので、学習のために調べたいと思ったからです。また、趣味でアニメ・漫画・小説をよく見るので海外のことを知り、交流してみたいと思ったからです。

そして将来役立つ情報や文化を知ること、自分の成長につなげたいからです。

## 3 テーマについての事前調査

アメリカの家の外壁材料は他の国と比べ耐久性が高く、メンテナンスの手間がかかりにくいのが特徴だそうです。ホットスプリングス国立公園は歴史ある建物がたくさんあるのでぜひ見に行きたいと思いました。そしてアメリカは二つの構造の建物があることが分かりました。

一つは量産型の建物です。壁はレンガやコンクリートを使用し、簡単な作りで基本的に住宅地に多く見られます。二つ目は教会文化施設の建物です。構造は複雑でたくさんの材料を用いていることが分かりました。これらのことを調べてアメリカに行ったらホストファミリーの家の特徴、僕の家との違い、なぜ量産型の建物が多いのかなどを調べたいと思いました。

## 4 研修報告

僕のホストファミリーの家は2階建てで、1階は車庫2階が主な生活スペースになっていました。基本的に一人一部屋で、部屋の中には僕の家にはあまりないタンスがありました。さらにカーペットが各部屋に敷かれていました。多分靴のまま家に入るので家を汚さないために敷かれているのかなと思いました。

僕が行ったホットスプリングスは温泉が有名で、温泉をモチーフにした建物が多くありました。ホットスプリングスの温泉の歴史などを学べる博物館のようなところに行きました。建物はあまり木を使っているようには見えなく、日本の温泉のように自然や木のぬくもりを感じられず、コンクリート製で温水プールのような感じでした。この点では日本の景観のほうが僕は好きです。

ホットスプリングスの建物は、日本の神社などのように複雑な構造の物はあまりなく精密さ重視ではないように感じました。壮大な構造や教会の様な神秘的で宗教的な雰囲気というものを重視しており、あまりコストがかからない量産型のような建物が多くあった気がします。

このことからホットスプリングスは、日本の市町村などに比べ面積が大きく人口も多いため量産型の建物が多いのかなと思いました。

また現在の日本では海外建築の特徴を取り入れた外装で、屋根は瓦を使わずコン



クリートなどを用いた洋風モダンな感じの建物が増えています。

その理由は日本家屋の建築様式が複雑で費用がかかります。一軒家を低予算で建てたい人にとって、アメリカの量産型建築が適しているからです。このまま洋風モダンな建物が増え続け日本家屋が減ると、日本の将来は神社などを除きすべてが海外風な特徴を持った建物だけになってしまうと予想しました。これはまずいことです。なぜなら日本のとても重要な文化の一つが消えてしまうからです。自然と共生するためにも木材を使う日本家屋の文化はなくならないほうがいいと思いました。

## 5 まとめ

今回ホットスプリングスに行き、将来自分が建築士として役に立ちそうだと思ったことは、多文化を取り入れ進化させることです。

たとえば日本の大手建築会社を作っている家は洋風モダンでありながら、木造主原料を重視し地球のことを考えて設計しています。そして洋風モダンでありながら自然と共生を重視して木造で作られています。これはアメリカと日本の文化が合体してできたようだと僕は感じました。これなら伝統的な日本家屋がなくなってしまうけれど、自然と共生するためにもこの考え方は重要視すべきだと思いました。

僕が行ったホットスプリングスの学校制度は大学まであり、受験をしなくてもよい小中高合体の学校や、頭の良い人は飛び級できるシステムがあったりとても環境がいいと思いました。なぜならもっと上のレベルを勉強したい人は飛び級することで時間短縮ができ、より早く世間の知識を身に付けることが出来るからです。

アメリカでの食生活は好きなものを好きなだけという風習があるとホストファミリーに言われました。また今回は少ししか見られませんでした。中央通りのストリートアートなどは、自由の国であるアメリカの文化が伝わってきました。

アメリカに行って成長した点は英語での会話力の向上と積極性です。最初のころは携帯の翻訳機能に頼りすぎて英語を話せませんでした。けれども途中から聞き取るだけでなく自分から「喋る、ようになり始めると相手が話していることがだいたい分かってきました。そしてホストファミリーに「どこ行きたい？」などの質問をされたときも、自分の意見をはっきりと言うことが出来る様になりました。

今後の目標はもう一度アメリカなどの海外に行き、今回以上にもっと積極的に現地の人と交流を深め、まだ知らないアメリカの文化などを知りたいです。こうして得た知識を自分の成長につなげていきたいです。



## 1 研修テーマ

ホットスプリングス市で見られる植物・自然、温泉について

## 2 テーマ設定理由

植物や自然が大好きだから。また、家族と温泉によく行くので、海外の温泉を見てみたいと思ったから。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで調べた。ホットスプリングス市には国立公園や展望台のようなところがあり、特にその近くで植物や自然について調べられそうだった。温泉の今は歴史や当時の施設・設備を知ることができる記念館として残っている。

## 4 研修報告

<植物・自然について>

国立公園のところでは、紅葉がきれいな街路樹があった。展望台からも素敵な自然が感じられた。ホットスプリングス市はどこに行っても紅葉が見られ、木々は日本よりも木全体に葉がついているような感じがした。紅葉は、赤・オレンジ・黄色など、とても色とりどりできれいだった。

ホストファミリーの家の周りも自然が豊かで、毎日紅葉がたくさん見られた。学校の周りは道路や紅葉に囲まれているなど様々だった。コールマン水晶鉱山や展望台に行ったとき、ホットスプリングス市は空気が澄んでいると特に感じられた。紅葉シーズン以外のホットスプリングス市の自然も見てみたいと思ったので、次に行くときは違う時期に行ってみたい。

<温泉について>

国立公園にたくさん温泉の建物が並んでいた。今でも温泉に入れるところは一つしか残っていないが、他の温泉の建物は記念館のような感じになっていた。

建物の中は、フロント・浴場・脱衣所などが当時のまま残っていた。また電気マッサージを行う部屋・スチームを浴びる部屋・ジムなどもあった。

ホストファミリーに聞いたところ、当時（バスハウスがスパをして営業していた頃）はアメリカの各地からたくさんの人がホットスプリングス市に来て、温泉に入っていたらしい。温泉に泊まることもできたそうだが、部屋を借りる（一泊する）のには結構なお金が必要だったらしく、お金持ちの人しか利用できなかったらしい。今は国立公園の敷地の中に小さな温泉のようなものがあり、触ってみると日本の温泉と同じ温度だった。

私が行った時も他の観光客でにぎわっていて、温泉の写真を撮ったり買い物をしたりしていた。時がたった今でも、ホットスプリングス市は素敵な観光地だと思った。

温泉の歴史を感じることができるだけでなく、自然が豊かで人々も優しくいい人ばかりだからだ。私は温泉に入ることができなかったが、いつか観光で行って入ってみたいと思った。ホストファミリーの話によると、温泉に入る時は水着を着るらしい。そこも日本とは違うな

と思った。

<その他>

ホットスプリングス市にいた期間はほとんど晴れていたもので、星空を見るのが好きな私は夜少し外に出て空を見た。そこで私は、花巻市とホットスプリングス市では星座の見える位置が違うことにとても興味を持った。

普通に考えれば当たり前のことかもしれないが、「いつも見ていた夜空はこっちにオリオン座があったのにホットスプリングス市の空だとあっちにある！」と、とてもわくわくした。

見える位置が違ふと、今の時期花巻では見られない星座も見られるので、いつかこのことも調べてみたいと思った。また、ホットスプリングス市はとても空気が澄んでおり、空もとてもきれいに見られた。美しい夜空を見ることができて私はとても嬉しかった。

## 5 まとめ

ホットスプリングス市は自然がとても豊かで、温泉が有名という歴史を今でも大切にしていた。とても紅葉や夜空がきれいで感動した。日本の自然も美しいが、海外の自然もとても美しいことをたくさんの人に広めたい。

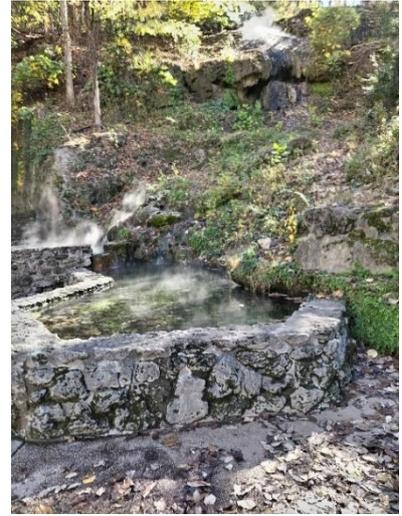
最初はホットスプリングス市の方々とうまく話すことができなかったが、ジェスチャーや翻訳アプリなどを使ってだんだんうまく話すことができた。海外で過ごすうちに、少しではあるが英語力やコミュニケーション力が身についたと思う。ホットスプリングス市の方々はとても優しく、面白い人も多く一緒に過ごしていて楽しかった。

ホットスプリングス市の方々とのコミュニケーションを通して学んだことがある。1つ目は英語でうまく伝えられなくても、自分の力で単語やジェスチャーを使い会話することが大事だということ。2つ目はやったことがなくても積極的に挑戦することで、新しい自分に出会えることだ。学んだことを、今後の学校、普段の生活、将来と様々な場面で生かしていきたい。もっと英語を勉強して、翻訳アプリを使わなくてもすらすら英語が話せるようになり、またホットスプリングス市に行きたいと思った。

将来は、自分の好きな自然や星空などの日本と海外の共通点・相違点をたくさんの国に行って自分で調べていきたいと思う。

最後に、今回このような滅多にない貴重な経験をさせて下さった花巻市、国際交流協会の皆様、引率の方々、ホットスプリングス市の方々、同じグループの仲間に感謝を伝えたい。そして、この研修に参加させてくれた私の家族、そして初めての海外での生活を応援してくれた学校の先生・生徒にも感謝したい。研修を通して、また海外に行きたいという気持ちが芽生えた。

私は、高校生になったらまた海外派遣事業に参加しようと思う。次は行き先が変わる可能性もあるがどこに行くにしても、様々なものに興味を持ちたくさんのことを学んできたい。これからも英語を勉強して、コミュニケーション力を高めていきたい。私の長所の一つである、何事にも興味を持ち自ら挑戦する積極性などももっと向上させて、今よりも成長できるように頑張りたい。



↑ホット Springs 国立公園での写真

←コールドマン水晶鉱山での写真

## 1 研修テーマ

①アメリカの学校と日本の学校の違いを考える。

(→制度的なこと、生徒たちの様子など)

②特別な支援を必要とする生徒へは、どのような方法で指導を行っているのか。

## 2 テーマの設定理由

①どのような教育環境の中で生徒たちが学習をしているのかを知り、日本の教育と比較するため。また、生徒の様子を知ることで、日本の子どもたちにつけるべき力はどのようなことなのかを知り、指導に生かすため。

②「教育の多様性」や「インクルーシブ教育」などが注目される中、特別な支援を必要とする生徒へはどのような指導がなされているのかを知るため。



## 3 研修報告

①税金がきちんと教育に使われているのが目に見えてはっきりわかる。

### 【教育施設】

日本とは比べものにならないくらい充実している。各教室には大きなモニターが設置されており、図画工作の授業では、先生が作業している手元の様子が実物投影機によってモニターに映し出され、視覚的に子どもたちの手助けになっていた。

### 【授業の様子】

授業が始まると教室は施錠される。最終日に伺った LAKESIDE SCHOOL では生徒の出欠が1時間目で取られ、出席が確認できない場合は保護者にメールをする。授業中にトイレや保健室に行く場合は、教科担任の先生が管理職にメールをする。そうすることで、生徒の動きを全体で把握することができるという。

授業は、10年ほど前までは、日本のように教師の話聞いて挙手して発言するというものだったが、今は周りの生徒と自由に話すことができるようになったとのこと。この時に授業を担当していた先生は、「日頃から話や雰囲気心をかけているし、間違っただとしてもそれをみんなでカバーすればいいと考えている。わかる人はみんなに教えてあげたら良いのだから」と話してくれた。



## ②特別に支援が必要な生徒に対する支援

基本的には学校による。LAKESIDE SCHOOLでは、日本と同様、支援員さんがついてサポートをする。自立活動については、支援学級で行う。支援学級には洗濯機やオーブンなど、生活で使う物が一通りそろっていて、練習できるようになっている。他には、支援学級と分けることなく、みんなが通常学級で教育を受けるという方針の学校もあるようだ。



## ③その他

私が帰宅後、しおりにその日の出来事や気づきなどをメモしていると、ホストマザーはきまって、「祥子は真面目ね」と声をかけてくれた。その様子や、私が使っていたペンケース、毎朝の服装などを見て、日本人は行動も服装も持ち物もきちんとしていて、全体に整理されている印象があると話してくれた。

ホストファミリーはよく近所の親しい人を招いて夕飯を食べていたのだが、その準備をするのはいつも男性、お父さんたちだった。準備の間、お母さんたちは持ち寄ったワインやサラダ、チップスなどを嗜みながらおしゃべりしている。その様子を見て、私はとても驚いたと伝えた。日本の家族の特徴や、父親、母親の役割などを加えて話すと、ホストマザーは「この様子を動画で撮って、中学生の男の子たちに見せるといいわよ。女性をいたわることは、とても大切なことなのよ。」と笑っていた。日本人はきちんとしているのに、家庭で男性はほとんど役割を果たさないことに驚きと残念さを感じていたようだった。

## 4 まとめ

生徒たちは服装や髪型、持ち物も自由である。授業時の号令や挨拶もない。自由度はかなり高めであるが、個々の責任が問われる場面が多いように感じる。自分の考えや疑問を常にもち、それを相手にきちんと発信できること、授業の準備や片付けなど、一人一人が役割をもち、仲間のために働くこと。このような意欲的な姿勢は、日本の子どもたちには足りない。授業を受ける時には、わかろうとする姿勢や、常に疑問をもちながら参加をするということが絶対必要だと聞いた。

義務教育を終え、社会で通用する人間に育てるために、学ぼうとする前向きな態度、失敗を恐れず挑戦する姿勢、誰かのために働くという優しさを、中学校生活で身につけさせたい。

引率には不安はありましたが、このようなすばらしい機会を与えていただき、自分の教育観や役割について考えることができました。感謝しています。ありがとうございました。



# ベルンドルフ市派遣研修報告書



令和5年11月5日～11月14日

## ベルンドルフ市派遣

### 派遣生

東和中学校	うめき あきら 梅木 聖
宮野目中学校	おかもと くるみ 岡本 來海
花巻北中学校	きくち うみ 菊池 蒼海
湯口中学校	ささき あやか 佐々木 彩花
宮野目中学校	するが さくら 駿河 桜
花巻北中学校	みよし ゆうしん 三好 裕心

### 引率

矢沢中学校 教諭	みうら みわこ 三浦 美和子
花巻市国際交流室 主査	すずき こうや 鈴木 皓也



## 1 研修テーマ

オーストリアの伝統衣装について

## 2 テーマ設定理由

将来、私は和服に関わる仕事に就きたいと思っています。そこで、和服をもしデザインするときに海外の伝統衣装を着る場面や構造、そして歴史を知っていることで、日本だけでなく他国の人々からも愛されるような服を作ることができると思ったからです。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットや本でテーマについて調べました。オーストリアの伝統衣装は「ディアンドル」というアルプス山脈の農家の女性が着ていた衣装が基礎となっています。現在では浴衣や着物と同じように多くのほとんどの人は日常着としては着られていないようです。

「ディアンドル」とはバイエルン・オーストリア語で「娘さん」や「お嬢さん」という意味であり、町中に出稼ぎでやってきた農村出身の若い娘達に対する「お嬢さん」という呼びかけがそのまま服装の名称となったそうです。

## 4 研修報告

ディアンドルはドイツ南部バイエルン州からリヒテンシュタイン公国、オーストリア・チロル地方、スイス、イタリアのアルプス地方にかけて着られていた伝統衣装です。

エプロンには、たくさんの色のものがありますが、結婚式などでは白いものが身につけられました。エプロンの腰ひもの結び目にも意味があることを初めて知りました。未婚の場合は結び目が左側に、既婚の場合は結び目が右側になります。さらに未亡人の場合は後ろ結びになるそうです。

構成は、前が開いていて襟ぐりの深い、短い袖のないボディスの下に、ブラウス、踝まで覆う長いスカートまたは膝丈のスカート、エプロンが伝統的です。ボディスはボタンやホックだけでなく、紐で締めるタイプもあります。より伝統的



ボディス



様々なデザインのディアンドル

なスカートは無地やチェックなどシンプルな生地で作られます。冬ではブラウスがハイネックになり、厚地の木綿やウールなどで仕立てられます。

労働着として着られていたため、装飾が非常にシンプルでしたが、1870年代になり、オーストリアの上流の女性にも着られるようになり、ベルベットやシルクなどの高価な生地で仕立てられ、刺繍などの装飾が施されるようになりました。

近年では様々なデザインが見られるようです。ボーイスカウトのパーティに参加した時、小さな女の子から大人の女性まで、たくさんの人がディアンドルを着

ていました。私のホストマザーが着ていたものはボディスが黒く、スカートが紺色で、シンプルで伝統的なデザインでした。一緒に参加した派遣生が着させてもらったものは、ボディスとスカートにバラの模様が施されていて、エプロンが赤褐色でした。上下が別々ではなく、ワンピースのようになっていました。その生徒のホストファミリーもボディスとスカートが赤のチェックで胸の部分にバラの刺繍がしてあり、エプロンも水色でした。さらに、パーティで出会った女の子が着ていたディアンドルは、赤と黒でまとまっていて、スカートに骸骨の模様があり、パンク調でした。他にも、パステルカラーのものを着ている女の子もいました。私は初めて見た時とても驚きましたが、時代が進むごとに多様に進化するのだなと思いました。私はそれが悪いことではないと思っています。今までの伝統を今の若者にもたくさん愛してもらえるようになるのはとてもうれしいことだと思うからです。完全に崩れてしまっただけでは意味がないけれど、着方を工夫したり、デザインを少し変えてみたりすれば、幅広い年代に着てもらえると思いました。

## 5 まとめ

海外は初めての経験でした。英語もあまり得意ではありませんでしたが、ギムナジウムの生徒達やホストファミリーの理解力が素晴らしく、単語をただ繋げただけでも理解してくれました。発音にも全然自信がなく、話しても伝わらないだろうなと思いつつ話してみると、しっかり聞き取ってくれました。会話するときも英語を簡単にしてくれて、本当に助かりました。翻訳機を通して意味がよくわからなくて困っていた時もジェスチャーなどを使ってわかりやすく説明してくれました。助けられてばかりではいけないので、私ももっと勉強したいです。私が会話に「Danke(ありがとう)」や「Super(すごい、素晴らしい)」など、簡単なドイツ語を使うとすごく褒めてくれたので、簡単な会話ができるくらいのドイツ語を習得しようと思いました。派遣中に通訳をさせていただいた一色さんに聞いてみたのですが、ドイツ語はほぼローマ字読みなのだそうです。でも、英語で言う「the」のようなものが6つぐらいあるので大変ですよ、とおっしゃっていました。私にはもう読みの時点で難しかったです。

ホストマザーとは一緒に料理やお菓子作りなどをしました。さすがは本を出版しているだけあって手際が良く、とても美味しかったです。ホストファミリーは平日の仕事が忙しく、話す時間があまりありませんでしたが、休日には会話の機会も増え、ベルンドルフ市のことを詳しく教えてくれました。

ホストブラザーは大のゲーム好きで、一緒にマイクラフトやロブロックスというゲームをしました。スマートフォンやゲーム機では私もするのですが、PCではしたことがなかったのでやらせてもらいました。本当に初めてだったので、キーを間違えて車で衝突したり行きたい方向と逆方向に行ったりとハプニングが起りましたが、プレイするごとに上達していき、嬉しかったです。そして小学生の弟達とも遊んで、本当に弟ができたみたいで楽しかったです。あの1週間はなにかもが新鮮でした。

困ったことは食事の量です。朝と夜は少なめなのですが、昼ご飯の量がとても多かったです。メイン料理の前にスープが出るのですが、そのスープの量が私にはすごく多かったです。やっと飲み切れた！と思ったら、それからまたかなりの量のメイン料理が出てきてとても驚きました。でも、どの料理も美味しかったです。

ウィーンの街並みは私が想像していた通りで、「the・ヨーロッパ」という感じがしました。

どの通りにも必ずパン屋がありました。私もホストマザー一行きつけのパン屋に行って、クロワッサンを食べましたが、とってもサクサクしていて美味しかったです。あんなに美味しいパンは初めて食べました。他にも、有名ブランドのショップや、カフェがたくさんありました。2連結のバスや路面電車も走っていて、ウィーンは路面電車が盛んに走っていることで有名なのだそうです。そして一番驚いたのが、馬車が街を走っていたことです。東京の浅草では人力車が走っていますが、それと同じようなことなのではないでしょうか…。次行った時は乗りたいと思います。ウィーンの街中では度々日本語が聞こえてきましたし、中国や台湾などのアジアからの観光客が多かったです。

日本だけでは学ぶことができない体験をたくさんすることができました。不安なことだらけでしたが、周りの方々のおかげで、オーストリアでの日々を楽しく過ごすことができました。毎日がとても新鮮で、この日々を忘れることはありません。このような貴重な経験をこれからに生かそうと思います。また、必ずもう一度行こうと思います。

そして、ホストファミリーのみなさん、ギムナジウムの先生方や生徒達、通訳の一色さん、友好協会の方々(特にカメラマンのクリスティアンさん)、引率の方々にはたくさんお世話になりました。ありがとうございました。



ウィーンのパン屋



ウィーンで食べた昼ご飯



ギムナジウムの生徒達と





ウィーンで少し入ったところの通り



ホストブラザーと



ボーイスカウトのパーティ



9月にホームステイに来た子と

## 1 研修テーマ

派遣先で行く学校と、私たちが通っている学校との違いについて

## 2 テーマ設定理由

日本の学校とはどのように違うのか、逆にどのようなところが同じなのか、校則など、どんなルールがあるかなども知りたかったからです。また、海外の学校はなんとなく自由なイメージがあるので、実際に自分の目で見て調べたかったからです。

## 3 テーマについての事前調査

オーストリアの学校は新学期が9月から始まって6月に終わり、夏休みは7月と8月、クリスマスと正月の時期は2週間の休みがあるなど、休みが日本に比べて多いです。また、オーストリアには部活が無いようです。

## 4 研修報告

### (1) 学校制度、ルール、昼ごはん

私たちが行った学校はギムナジウム校といい、日本で言うと小学5年生から高校3年生までが通う学校で、多くの生徒がいました。男女関係なく誰とでも話す人が多く、私たちに気軽に話しかけてくれて、とても明るい学校でした。

生徒は私服登校で、メイクやアクセサリ、スマホなども持ち込み可能でした。少しのルールはありましたが、制服着用などのルールがある私たちの学校に比べて、あまり厳しくはなかったです。

学校に食堂のようなものがあり、お昼はそこで食べたり家に一度帰ってから食べたり、昼食を持ってきたりなど、生徒によって様々でした。全員が同じ時間に決まったものを食べる私たちの学校とは異なっていたので驚きました。



学食 (美味しいごはんばかりでした)



授業風景 (パソコンで学習中)

## (2) 授業について

授業は50分で休憩は5分または10分です。5、6時間授業がほとんどですが、多い日には8時間授業の時もあるそうです。私たちが行った時は、自己紹介などをしました。授業中にお菓子を貰って食べました。授業中に食べる事は私たちの学校ではありえないので、驚きましたし、悪いことをしているような気分でした。

そして、特に印象に残っている授業は美術と体育です。美術は座って絵を書くのではなく、外でグループごとにお題にそった写真を取りました。難しいお題ばかりでしたが、みんな意見を出し合い試行錯誤しながら撮りました。初めてのことでとても面白かったです。

体育は男女別の場所でした。女子はドッジボール、男子はバレーボールでした。ドッジボールは私たちが知っているルールではなく、投げたボールをキャッチされたら外に出るというルールで、理解するまで少し時間がかかりましたがとても面白かったです。みんな容赦なくてハラハラしながらやっていました。

英語の授業にも参加しました。英語が上手な人ばかりで驚きました。母国語のドイツ語ではない言語なのにスラスラ話せていてすごいなと思いました。行く前はドイツ語だけの会話だったらどうしようと不安でしたが、みんな分かりやすい英語で話しかけてくれたのでとてもありがたかったです。もっと英語を学びたいなとも思いました。



体育でのドッジボール



美術での写真（格差を表現）

## (3) 学校の内装

ギムナジウム校は大きな学校で、音楽室のような所の廊下にチューバなどの楽器があったり、壁に絵画が貼っているなど、日本の学校のようにシンプルな内装ではなくカラフルな内装でした。全校の生徒は約800人で、たくさんの教室があり、先生がいないと迷子になる程大きかったです。先生も多いため、職員室では一つの机を二人で使うこともあるそうです。日本では考えられないので驚きました。学校内は専門の方が掃除をしていてとても綺麗でした。ここも日本と違う所だなとも思いました。



ギムナジウム校内

## 5 まとめ

ギムナジウム校の生徒はノリが良くてとても優しかったです。英語がなかなか伝わらなくても、頑張って聞き取ってくれたし、たくさん話しかけてくれました。オーストリアに行って改めて、相手を思いやることの大切さに気づく事ができました。ギムナジウム校は日本の学校に比べて自由に感じ、校則も厳しくなくて羨ましかったです。授業で使うものも、一人一台のパソコンで効率的だなと思いました。そして、お腹が減ったら学食をすぐ食べられるのもいいなと思いました。どれも日本とは違い、驚くようなことばかりでとても面白かったです。日本の常識は世界の非常識という言葉の意味がちゃんとわかりました。また、ギムナジウム校の様々な点を羨ましいと思った反面、自分たちの学校を自分たちで清掃することできれいに使うことができるし、給食によって栄養バランスの取れた食事をとることができる日本の学校の良さについても実感しました。

私のホストファミリーは大家族でとても賑やかでした。パーティーに着て行った伝統の服もプレゼントしてくれました。とても可愛い赤ちゃんもいて癒しでした。短い間でしたが本当に明るくて居心地の良い家族でした。またオーストリアに行って私の第2の家族に会いたいです。最後に、このような貴重な経験をさせてくださった花巻市、花巻国際交流協会の方々、ベルンドルフの方々、保護者、そして、ホストファミリーに心から感謝します。ありがとうございました。



私の第2の家族

## 1 研修テーマ

オーストリアの食文化について

## 2 テーマ設定理由

僕が食文化について調べたい理由は、食べることが好きな僕は、以前からオーストリアの伝統的な料理などに興味を持っていて、特に海洋国で魚料理が多くある日本と、内陸国であるオーストリアの食文化の違いはどうなっているのかが知りたかったからです。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットや本で食文化について調べたところ、オーストリアは内陸国のため海水魚を使った料理は少なく、肉料理が充実していることが分かりました。例えばオーストリアで有名な肉料理は、日本の豚カツのようなヴィエナ・シュニッツェルという料理がありました。

## 4 研修報告

現地では、ホストファミリーの家で食べた料理や外食先での料理をもとに研修テーマについて調べました。

僕のホストファミリーの家では、様々な国の料理が出てきました。主に芋やパンを主食としていて、海水魚を使った料理は出ませんでした。また、日本でも食べられているお米も食べられていましたが、そのまま食べるのではなく、アレンジをしてミルヒライスというご飯と温めた牛乳を混ぜて、それにチョコレートを少し混ぜて食べました。普段はそのまま食べているご飯がアレンジされて食べられているということに驚きました。まろやかなご飯に少しの甘みが加わっていて、今までに食べたことのない味でした。そのほかにも、ホストファミリーの家で食べた料理は全体的に味が甘いものが多く、朝食はパンとサラミ、チーズ、ジャムなどを使いパンと一緒に食べるが多かったです。

外食の際に食べた食事でも、ホストファミリーの家と同様に肉料理が多く、魚料理が少なかったです。ヴィエナ・シュニッツェルは、お店によって肉の大きさや、使用する肉の種類が異なっていました。また、シュニッツェルと一緒に出てくる野菜もお店によって大きく異なっていることが分かりました。特に、ホストファミリーデイに訪れた、オーストリアの首都であるウィーンで食べたシュニッツェルがとても美味しかったです。衣がサクサクで、シュニッツェルと一緒に酸味のあるジャガイモと、シュニッツェルにつけるとおいしくなる甘みのあるラズベリーのジャムがついていました。お肉はしょっぱく、芋は酸味があり、ジャムは甘みがあり、アレンジをしながら食べることができました。

オーストリアに行って驚いたことがほかにもありました。それは、家の中にある水道水を飲むことができるということです。日本では当たり前のように飲んでいる水道水ですが、日本以外の国では、水道水を飲み水としてそのまま使うということが無いと思っていたので、オーストリアでも同じであると知り、とても驚きました。また、ホストファミリーの家では水以外の飲み物は出ませんでした。

僕は、ヨーロッパの国々では昔から食事マナーがシビアだという印象がありました。外食先

では、ほかのお客さんはとても静かに食べていて、音を出しても怒られはしませんでした。音を出さずに食べるという動作がみんな当たり前のように身につけていると感じました。また、僕の家では普段の食事中に会話をしていますが、僕のホストファミリーの家では、食事中は一言も話さずに食事をしていました。それでも外食先よりは、家族みんなリラックスして食べていました。ホストファミリーは食事中に会話をしていなかったため食べるのが早く、甘い料理が多いからなのか、食後のデザートのようなものは食べていませんでした。

外食先で食べた料理とホストファミリーの家で食べた料理では、外食先では肉料理が多く、ホストファミリーの家では芋を使った料理や麺類を使った料理を食べることができました。その中にはほかの国の伝統料理もありました。オーストリアは、昔に様々な国から分割占領統治を受けていたことから、言語はドイツ語で、食事も様々な国の料理を食べるようになったのではないかと思います。



ヴィエナ・シュニッツェル



麺を使ったラザニア



芋と砂糖を使った主食



朝食 フランスパン

## 5 まとめ

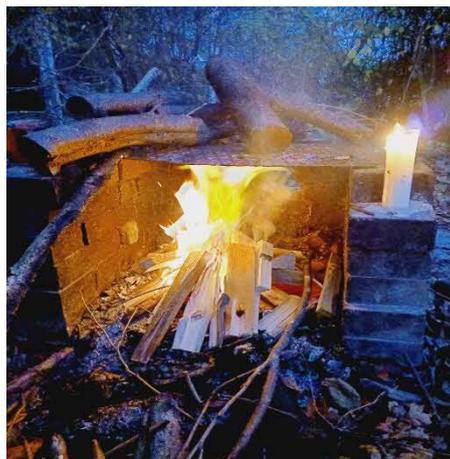
今回の研修では、自分の研修テーマについて自分なりに事前に調べることと、実際に経験し、調べたことに対するの考察をすることができました。日本の食事とオーストリアの食事の違いは、味の違いにあると感じました。日本では質素な味付けが多々ありますが、僕のホストファミリーの家では、夜ご飯に甘い料理が出てきてとても驚きました。外食での印象は、割と濃い味付けになっていると感じました。

オーストリアで改めて感じたこともありました。それは、料理が人を笑顔にするということです。僕は辛い時や元気がない時に食事をすると、いつも笑顔や元気になれる、気持ちをリフレッシュすることができます。僕のホストブラザーが怒っていた時も、ご飯を食べることで次第に険しい表情も晴れていきました。

オーストリアで感じたことはもう一つあります。それは僕の英語力不足です。オーストリアの公用語はドイツ語で、英語を話せる人もいましたが、こちらの英語力不足により英語で会話するのはとても難しく、自分の伝えたいことをすべて伝えることはできませんでした。しかし、何日か過ごしていくうちに、なんとなく相手の伝えたいことが分かってくるようになり、達成感と喜びがありました。今度は、現地の人とスムーズなコミュニケーションが取れるように英語だけでなくドイツ語も覚えていきたいです。



ホストファミリーとのトレイルラン



ホストファミリーとの焚火



ホストファミリーとのカードゲーム

## 1 研修テーマ

自分の住む地域とホストファミリーの地域との違いについて

## 2 テーマ設定理由

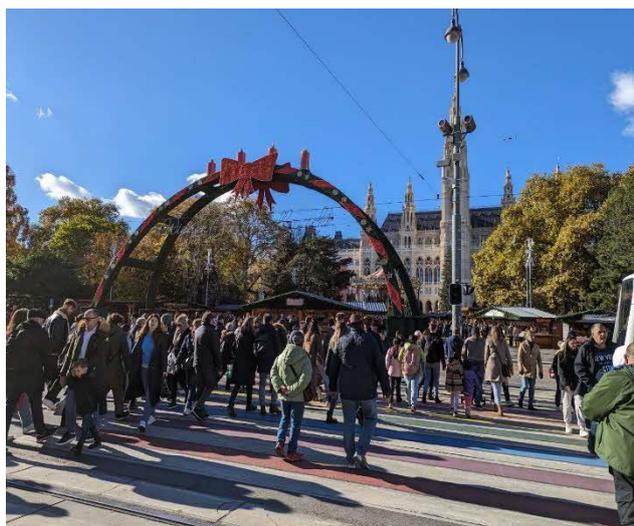
初めての海外で自分たちの文化や考え方がすべてではないと知りたかったことと、他の考え方を少しでも知り、世界の広さを感じたいと思ったからです。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットや、今年の9月に我が家にホームステイしていたベルンドルフ市からの派遣生に聞き、テーマについて調べました。文化については郷土まつり、復活祭（イースター）などがありました。クリスマス時期はオーストリアではとても特別な意味を持つそうです。食事では一般的にパン、ジャガイモ、肉料理、サラダ、野菜料理、デザートが出されるそうです。

## 4 研修報告

オーストリアでは通訳の一色さんから建物や歴史の説明を聞いたり、実際に街を歩いたりして研修テーマについて調べました。オーストリアにはさまざまな祭りがありますが、私のホームステイ先のホストファミリーはクリスマスが大好きだと言っていました。オーストリアのアドベント（待降節）の期間はクリスマスの準備期間で、“1年で最も平和な時期”としても知られています。クッキーを焼いたり、クリスマスデコレーションをしたり、クリスマスキャロルを歌ったりと、クリスマスまでの数週間を家族で愛すべき伝統を共有する、昔ながらの風習が守られている時期です。クリスマスデコレーションはクリスマスの1ヶ月ほど前から始まり、各地の主要な広場ではクリスマスツリーとイルミネーションで飾られたクリスマス市が開かれます。人々はここでクリスマスプレゼントを探したり、家のクリスマスツリーにつけるオーナメントを買ったりします。もちろん市の屋台には温かいソーセージや、グリューワイン、スナックなど美味しいものもいっぱいです。私がホストファミリーと行ったクリスマス市では、木の小屋のような屋台でものを売っていました。これはアルプスの山小屋を模した小屋なのだそうです。ところでみなさんは、オーストリアではプレゼントを持ってくるのがクリスマスのおじさんで有名なサンタクロースではなく「クリストキント(ChristusKind)」(キリストの子、イエスの赤ちゃん)だということを知っていますか？プレゼントは12月25日のクリスマス当日ではなく、24日のクリスマスイブに開けます。クリストキントはどうやって子供たちの願いごとを確認するのでしょうか？オーストリアのいくつかの地域では、子供たちは



クリスマス市

クリストキントへの手紙を暖炉に投げ入れるそうです。燃えた手紙に書かれた願いごとを、クリストキントはどうやって知ることか少し気になるですね。

オーストリアでは11月11日は聖マルティンの日でガチョウを食べます。その由来は諸説ありますが、司教に任命されたものの、なりたくなかったマルティンがこっそりガチョウ小屋に身を隠していたところ、ガチョウが騒いで見つかってしまったために罰としてガチョウを丸焼きにして食べるようになったという逸話にあります。私がホストファミリーのところで食べた食事ではジャガイモでできた団子、紫キャベツをお酢で漬けたもの、特製ソースと、ガチョウの丸焼きが出ました。ガチョウを食べる他にも夜、暗い道を子供たちが手作りのランタンに明かりを灯し、「聖マルティンの歌」を歌いながら「聖マルティン行進」をするそうです。歩き終えた後に子供たちは“ガチョウ”の形をしたパンやクッキー、お菓子などをもらえるようです。



ガチョウの丸焼き



ジャガイモの団子、紫キャベツの酢漬け  
特製ソース

## 5 まとめ

私は、この海外派遣で初めて海外に行きました。「オーストリアはドイツ語だけど若い人は英語を話せるから大丈夫」と言われてももちろん不安は消えません。いざオーストリアに来てみると、多くの場所でドイツ語が使われていました。私のホストファミリーも日常ではドイツ語を使っていましたが、私がドイツ語を理解できないため、私に物事を伝えるときは英語で伝えてくれました。しかし、相手側も英語をしっかりと理解しているわけではなく、何を言いたいのかわからないことが多々ありました。しかし、それはなにも不安が押し寄せて自分が何をしたら良いのか分からなくなる恐怖があるわけではありませんでした。わからないことも面白く、自分が知っている限りの英語を使って相手に自分の考えを伝えようとすれば、相手もこちらの話を真剣に聞いてくれました。伝わった時の相手の「ああ～そう言っていたのか」という笑顔を見るととても安心しました。

オーストリアには日本ではあまり見ないものがたくさんありました。町中を歩くピエロ、夜に謎に光りながら降ってくるオーナメント、広場のど真ん中で行う戦争に対する抗議デモなど、

沢山のものを見ました。日本との違いを沢山見つけられた中で、日本と共通しているのは思いやりと優しさがあることだと思います。私は今回出来る限り翻訳機能を使わずに会話をしましたが、翻訳機能を使うことは避けられませんでした。英語を勉強するのはもちろん、ドイツ語などのいろいろな国の言葉を学んでみたいと思いました。その場所に行かなければわからないことはたくさんあります。写真とは全く違ったり自分の視点でその場所を見れたり良い経験ができました。



ホストファミリーと見に行った  
クリスマスツリー



朝ごはんを作るホストファミリー

## 1 研修テーマ

オーストリアの建築物と日本の建築物との違いについて

## 2 テーマ設定理由

外国の建築物やデザイン、造りなど日本との違いを知ること、事業後の自分の心に変化があるか楽しみであること、そして違いを知ること、自分にとって今までと違う考え方が生まれ、どのように考えが広がっていくのか楽しみだったので、このテーマを設定しました。

## 3 テーマについての事前調査

テーマについての事前調査では、主にインターネットを中心として調べました。ウィーンには、シュテファン大聖堂という日本にある建物より大きくて高い建物が有名であることが分かりました。そして、このシュテファン大聖堂という建物は、ウィーンのシンボルであり、2001年にユネスコの世界遺産に登録されています。

## 4 研修報告

現地では、ウィーンの街を実際に歩いたり、通訳の一式さんと現地の方から様々なことを教えてもらい、研修テーマについて色々参考になりました。シュテファン大聖堂は、ハプスブルク家の歴代君主の墓場でもあります。ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトとコンスタンツェ・ウェーバーの結婚式が行われ、そして葬儀が行われた聖堂としても知られています。モーツァルトは、作曲家で古典派音楽を中心に活動してきました。そして、モーツァルトの奥さん、コンスタンツェ・ウェーバーはソプラノ歌手でした。

私は作曲家のモーツァルトのことは知っていましたが、奥さんのことや、結婚式が開かれた場所がシュテファン大聖堂だったことは初めて知りました。シュテファン大聖堂の外観はゴシック様式で、内部にある祭壇はバロック様式であるそうです。外と内とで様式が異なるのが面白いなと思いました。

私が初めてシュテファン大聖堂を見た感想は、ハリーポッターの世界にいるような感覚で、楽しかったです。この日は天気が曇りで、より一層ハリーポッターのホグワーツにいるようでした。あの時のワクワクは今でも忘れられません。

日本の建築物は、昔から



シュテファン大聖堂の外観と内観

木造が多いですが、ヨーロッパの建物は木造ではなく石造りでした。なぜこのような違いがあるかと言うと、気候風土の違いが大きな要因になっているからです。日本の気候は、夏は暑く湿度が高いため、建物の通気性を確保する必要があったそうです。ヨーロッパは乾燥した気候のため、通気性の心配がない石造りであることを初めて知ることができました。普段受けている社会の授業でも、習ったことがあったものがあり、これからも大切に授業を受けていきたいと改めて思いました。

そして、ベルンドルフの小学校も見学に行きました。ここでは、様々な教室がありました。まず、私が最初に思ったことは、一つ一つの教室の造りが異なっていたことと、ドアの柄も一つ一つが異なっていたことです。日本の学校はどの教室もドアも造りが一緒なので、とても驚きました。デザインとしては、天井など、その当時にあった出来事をもとにつくられていて、いろいろな教室に入る度、ワクワクが止まりませんでした。私は、この学校で授業を受けている生徒さん方が少し羨ましいなと思いました。



小学校の教室内



小学校の教室内のドア

## 5 まとめ

私にとって、今回の海外派遣は初めてであり、最初はとても不安がありました。ですが、事前研修を通してベルンドルフチーム 11 人で仲を深め、だんだんと不安が楽しみへと変わっていきました。現地では、あまり英語力がない私でも、身振り手振りなどのジェスチャーをして最後まで諦めないで、上手く伝えることが出来ました。それに、ジムナジウムのみんなやホストファミリーの方たちが、私が上手く言葉を言えなかったり、つまったりしていると、簡単な質問に変えてくれたり、時間をかけて待ってくれました。本当にたくさんの優しさ、たくさんの思いやりに毎日助けられました。ホストファミリーには日本語も少し教え、「いただきます」、「乾杯!」、「イケメン」、「ありがとう」などたくさん教えました。ホストファミリーは、メモを取るくらい熱心に覚えてくれました。嬉しかったです。これからもホストファミリーとの連絡を続けていき、離れていても仲良くできるようたくさん質問したり、今日あった出来事など教え合ったりしていきたいです。

今回の海外派遣ではとても貴重な体験をさせて頂きました。それは、今まで支えてくださった家族、先生、ホストファミリーの方たち、ベルンドルフの方たち、そしてこの海外派遣に携

わってくださった全ての方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回の海外派遣で学んだことや、苦勞したことを幅広い方たちに伝えていき、この海外派遣が途切れず、これからも続いていくことを願っています。



ホストファミリーと



ギムナジウムの生徒達と



ギムナジウムの生徒達と



ルンプラー市長と



ウィーンのホーフブルク宮殿前にて



ウィーンのシェーンブルン宮殿前にて

## 1 研修テーマ

ウィーンやベルンドルフ市の街並みについて

## 2 テーマ設定理由

僕はこれまでに海外の街並みを実際に見たことがなかったため、オーストリアの建物や道路、雰囲気などのようなものなのかを知りたかったからです。

## 3 テーマについての事前調査

事前調査ではインターネットで調べ、日本ではコンクリートの道が多いですが、オーストリアの街中の道がコンクリートではなく石でできていること、日本に比べて建物が大きいということがわかりました。

## 4 研修報告

### (1) ウィーンの街並み

オーストリアに訪れた初日と5日目に訪れたウィーンは、オーストリアの首都のためとても栄えていて、観光客も多かったです。建物が全体的に大きく、すべて同じくらいの高さの建物が繋がっていました。路地裏に入ると建物が大きいので、周りが見えなくなりました。日本と違うところは、道路や歩道が石のブロックで作られていることでした。ヨーロッパは昔から栄えているので、歴史ある建築物がいっぱいありました。街中には馬車が走っていて、いたるところでお客さんを乗せて走っていました。

ウィーンの歴史ある建築物にはシュテファン大聖堂や、ベルヴェデーレ宮殿がありました。シュテファン大聖堂は12世紀に最初の教会として建設されました。外観はゴシック様式で、内部の祭壇はバロック様式でつくられています。実際に見ると、建物が大きく、とても迫力のある外観でした。細部まで綺麗につくりこまれていて、建てるのにどれだけ時間をかけたのだろうと思うほどでした。内部は、絵画がいっぱいあり、銅像なども飾られていました。

ベルヴェデーレ宮殿はオーストリア王朝であるハプスブルク家の夏の離宮として作られたもので、1714年から1716年にかけて下宮、1720年から1723年にかけて、迎賓館である上宮が建設されました。現在は美術館となっており、庭園も綺麗で、宮殿前の門が大きくて豪華でした。見学をしたのがオーストリアに来て初日だったこともあり、より一層感動しました。

初日に歩きながら見た



シュテファン大聖堂



ベルヴェデーレ宮殿

ウィーンの公園には綺麗な花や噴水があり、日本の公園よりも多くのベンチが置かれており、たくさんの方がいました。冬は日照時間が短いため、ウィーンでは日中には公園で日光浴をして過ごす人が多く、ゆっくり休むことができるように作られているそうです。



ウィーン市内の公園

## (2) ベルンドルフ市の街並み

ベルンドルフ市はウィーンとは違い、のどかで落ち着いた街並みでしたが、道がとても入り組んでいて全然道がわかりませんでした。オーストリアはキリスト教徒が多いこともあり、教会が多くありました。



歴史ある市民劇場は内装がとても豪華で美しかったです。皇帝など、偉い人が外から直接建物内に入るための扉もあり、絵画やシャンデリアなど、一つ一つの内装にこだわりを感じました。実際に皇帝が座った席に座らせてもらい、ステージを上から見下ろすのが皇帝になったようで気持ちが高ぶりました。



市民劇場の外観と内観

グーグルツィップ展望台はベルンドルフ市の街中を一望できるスポットです。ここからの景色と大迫町の景色が似ていることが、大迫町との友好都市になったきっかけの一つのことです。最初にホストファミリーと会った時に「ベルンドルフ市は小さい街だよ」と言われ、本当かなと思っていましたが、展望台から見たら、本当に小さく綺麗な町でした。



展望台から見たベルンドルフ市

市内に多くあった教会のうちの一つを見学したのですが、中には想像していた通りの景色が広がっていました。左右には長椅子があり、真ん中にはキリストの写真がありました。僕が見た教会は大きく、内観が全体的に白色で、丸い形でした。壁には人の姿が彫られており、その近くには名前が書いてあり、とても神秘的でした。日本にはそれほど教会が無く、教会を見るのは初めてだったため、とても感動しました。



見学したマルガレーテ教会の外観と内観



展望台の前での記念撮影

## 5 まとめ

今回の派遣研修は純粋に楽しかったですし、ウィーンに到着した時に感じた海外の空気や、見る風景は初めてのものでした。初めて見るものばかりだったので、全部に興味がいき、見ても見きれなかったです。ホストファミリーと初めて会った時には、男子だと思っていたら女子だったため驚き、緊張してしまい全然喋れませんでした。一緒に過ごしていくうちお互いに打ち解け、3時間ぐらいずっと話していることもありました。ホストファミリーはみんな明るくて優しく、笑顔で僕を迎えてくれました。休日には、買い物に行ったり、博物館に行ったり、日本料理店でお寿司を食べたりしました。1つ反省点があるとしたら、伝えたい事や相手が話していることが分からず、翻訳機に頼りすぎてしまったかもしれません。

ベルンドルフ市を離れる際のホストファミリーとの最後の別れはとても辛く、悲しいものですが、今回の派遣はとてもいい経験になったし、もっと英語やドイツ語を勉強したいと思っただし、いろんなことを話せるようになりたいと思うようになりました。そして、話せるようになり、いつかまたホストファミリーやベルンドルフ市のみんなと再会を果たしたいです。



僕のホストファミリー



最終日にそれぞれのホストファミリーと

## 1 はじめに

令和5年度の青少年海外派遣事業では、引率としてオーストリア・ベルンドルフ市を訪れる貴重な機会をいただきました。関わってくださったみなさんの多大なる協力のおかげで、素晴らしい体験をさせていただき、派遣生・引率共に全員無事に帰国できたことに安堵しております。ありがとうございました。

## 2 ギムナジウム中等高等学校

滞在中は午前中に授業への参加、午後はベルンドルフ市内外で研修という流れの日がほとんどでした。中学生と高校生に分かれて授業に参加しましたが、現地の生徒たちの積極的な学習意欲におどろきました。担当の教員に質問された時はもちろん、それ以外の説明や問題演習の間にも次々に意見が発表されており、感銘を受けました。また、私たちにもわかるように英語で授業をしてくれたり、ペアやグループ活動に花巻の生徒たちを入れたりして、現地の生徒たちと交流をできるよう授業内容を工夫していただきました。お陰で、生徒たちは自分のホストシスターやブラザーだけでなく、多くの生徒と共に学び、仲良くなることができ、このプログラムの最大の目的である「青少年の交流」が達成されていたと感じました。現地の生徒たちの英語力も高く、突然ドイツ語から英語での授業に切り替わっても、難なく教員の指示に従っていき、日本人にもわかりやすいようにゆっくり発音したり、翻訳アプリを活用したりして積極的にコミュニケーションをとってくれました。自己表現の苦手な日本の生徒にとっても、大きな刺激となったようでした。



## 3 派遣生徒の変容

この研修を通して、派遣生徒たちの成長にも頼もしいものがありました。ベルンドルフに着いた当初は、現地の生徒の中に入っていくことに消極的でしたが、ホームステイや授業を通して、自分を表現し、相手を理解することの大切さに気付くことができたようです。また、現地で行ったプレゼンテーションを通して、相手意識を持って英語を発表しようとする様子も見えました。外国人の前で”Hello, everyone.” と言えば”Hello!!” と返ってくる。だから、「あいさつのあとは、少し間を空けた方が良いかな」「名前を言った後、手を振ってみたいかどうか」「最後は、Thank you.ではなく、Danke schon!! (ドイツ語) でやってみたい」などなど、次々に進化していきました。その他にも、何か不具合があると、「○○どうでしょうか。」「○○していいですか。」と自分たちから発信して解決しようとする態度が見えたこともうれしい変化でした。

そして、生徒の中に大迫高校の生徒が含まれていたことは、大きな意義がありました。理由は、ベルンドルフと繋がり深い大迫町の学生だったからです。滞在中、何度も”Ohasama”という言葉が出てきましたが、彼らがいたおかげで全員が自分事として説明を聞くことができました。また、中学生たちに周囲への気遣いを促したり、大人からの指示を更にわかりやすく伝え直したりしてくれた存在だったからです。私たち引率者の気づかない所でも中学生の良き相談相手となってくれていました。



#### 4 ホストファミリー リントナーご夫妻

私がお世話になったのは、ギムジナウム校で化学と生物の教員をしているイザベラ・リントナー先生のお宅です。彼女は、9月のベルンドルフ訪問団の一員で、生徒の引率として花巻を訪れていた方です。旦那さんのラファエルさんも数学と情報処理の教師で、ウィーン郊外の学校に勤務していました。「せっかくオーストリアに来たのだから、新しい食の体験をしてほしい」と、毎日違う料理を二人で作ってくれました。

休日には、イザベラさんのお母さんのお宅でのバースデーパーティーや英語のお芝居、クリスマスマーケットなどに連れて行ってくれました。イザベラさんのお母さんは、アメリカ生まれで結婚を機にオーストリアに移り住んだ方でした。その時のお話をしてくれた中で、「言語が違



うと思考も違う」ということを話していました。確かに、日本語を話すときは、「いつ・どこで・誰が・何を・どうする」という思考だけれど、英語を話すときは「誰が・どうする・何を・どこで・いつ」という思考になります。こういう違いが発端となって、そもそもの物の見方や、相手への伝え方が変わってくる、ということでした。「相手の思考を理解したければ、相手の言語を使う」と解釈できた時、気づいたことがあります。生徒たちが英語で

プレゼンテーションをした時、一番現地の人たちが盛り上がったのは、彼らがドイツ語で” Danke schon!!”と言った時です。あの瞬間、観衆のみなさんは、「日本の生徒たちが自分たちの思考に一步近づいてくれた」と感じたのかもしれませんが。この気づきは、言葉を教える職業の自分にとっても、大きな財産となりました。

## 5 むすびに

今回の派遣を通して、これまでの長い交流の歴史の中でベルンドルフのみなさんが、いかに心をこめて花巻の生徒たちを受け入れてくれていたかを知りました。今後も、この学生交流を長く続いてほしいと心から思いました。

### (1) セレモニーよりも、授業の中で交流を

現地の学校で歓迎セレモニーが開かれたのは、学校滞在の最終日です。しかも全校生徒の前ではなく、ホストファミリーや9月に花巻を訪れた生徒たちや担当の先生がただけのアットホームな会でした。学校

のホールで行われたので、その他の見学したい生徒たちは2階のギャラリーや廊下から自由に見ていました。花巻の生徒がプレゼンテーションをするときには、一緒に授業を受け



た生徒たちもたくさん見に来てくれて、拍手をしたり、手を振ったりして応援してくれました。これは、何よりも生徒たちにとっても大きな励みとなりました。それも、頻繁にグループ活動やペア活動で現地の生徒と交流をさせてもらったからこそだと思います。日本では、外国人が学校に来る、となるとどうしても「歓迎会をしなきゃ」「紹介式を…」と考えてしまいがちですが、目的は「学生交流」なので、学校での授業にどんどん生徒を入れて、一緒に課題解決学習をすればいいと思います。ホストファミリーだったイザベラ先生も、「もっと、いろいろな授業を見てみたかった。」と、9月に花巻で学校訪問をした時のことを話していました。花巻市ではタブレットが生徒全員に配布されているので、翻訳アプリをいれて積極的にコミュニケーションをとれるよう整備すれば、さらに交流が深まると思います。

### (2) Welcome!は、繋がっていく

今回の学生交流で良かったことの一つは、ホスト校が限定されていたことです。毎日、同じ時刻に学校に登校して授業に参加し、午後は市内の研修にでかける、というスケジュールを過ごすことによって、生徒同士も相互理解が進み、花巻の生徒たちも精神的に安定して生活することができました。これが、毎日違う学校に連れていかれていたら、こうはいかなかったと思います。また、受け入れに対応する教職員のチームの中に、過去にこの学生交流で花巻に来たことのある先生方がいたことも、特筆すべきことです。彼らは、「花巻で忘れられない体験をした」とおっしゃって、私たちの受け入れについても親身になって対応してくれました。

今回のベルンドルフ市のみなさんの温かい Welcome!の裏には、過去に彼らを迎え入れた花巻市民の Welcome!があったのだと気づきました。Welcome!の輪です。今後、ベルンドルフに限らず、交流都市からの学生たちが来ることがあったら、今回私たちがもらった Welcome!の輪を、しっかりとつなげて行きたいと思います。





ホットスプリングス市



ベルンドルフ市



ラットランド市



クリントン村



## ラットランド市派遣研修報告書



令和5年10月26日～11月5日

## ラットランド市派遣

### 派遣生

石鳥谷中学校

ささき わかな  
佐々木 和奏

南城中学校

さとう さえ  
佐藤 桜衣

宮野目中学校

たかはし しょうた  
高橋 翔太

矢沢中学校

ただ みおん  
多田 心音

花巻中学校

てるい みお  
照井 滢

東和中学校

よしざわ りょうた  
吉澤 亮太

### 引率

花巻国際交流協会 事務局員

ささき りさ  
佐々木 李紗



## 1 研修テーマ

私がアメリカのラットランド市に行って調べてみたいことは、小学校や中学校、高等学校の学校生活や授業内容についてです。

## 2 テーマ設定理由

普段日本の中学校で学んでいて、日本とアメリカの義務教育はどのように違うのか興味をもったからです。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで調べたところ、

- ・生徒一人一人に合わせた学び方をしている。
- ・具体的には、義務教育でも飛び級制度や留年もある。
- ・生徒の能力を尊重し、学びを加速させている。
- ・校則も日本より自由度が高く、頭髪の色や服装に制限がない。
- ・海外は自己管理能力を養う必要があると考えているようだ。
- ・義務教育は小学校6年、中学校2年、高校4年か、小学校5年、中学校3年、高校4年の12年である。(地域によって違う)

## 4 研修報告

### 【1】小学校

私が行ったところでは、自分で体験させて成長させる学校でした。私が参加させていただいた理科のような授業でも、ネズミとフクロウの色塗り、鹿の歯の骨に粘土を押し当てて歯形を作ったりしていました。特に一番驚いたのはミミズクやフクロウの消化しきれずに吐き出した骨の採取は日本でも一度もやったことがなく、ドキドキしながらやりましたが意外と簡単にでき、とても面白かったです。

次に体育にも参加し、ウォーミングアップとして体育館を走り準備体操をみんなで行いました。その他にも、音楽に合わせて床に寝っ転がったりダンスやスキップをしたり、いろいろなところで自分を表現していて素敵な時間でした。

どちらも自分でまずはやってみるという自立心と、小さい頃からたくさんものに触れさせ、興味を持たせるというのが大切だと改めて思いました。

また、小学生より小さい子供達に通っている方は、レゴブロックやおままごと、粘土、積み木などに混ぜてもらい一緒に遊んでいく中で子



供たちの笑顔がだんだんと見えてきて、話しかけてくれるようになるなど徐々に仲良くなれている感じがしました。ある子が粘土の入った箱を落としてしまったときに、文句など誰も言わずたくさんの子供たちが片付けを手伝ってくれて、感動したのを覚えています。そのときにクラスの一体感が生まれてきたと思います。ここで得られるものは他の子との人間関係のほかにも道徳的な気持ちも学んでいると感じました。

## 【2】中学校・高等学校・専門学校

先生方は多様性や個性を大切にし、生徒達に合った学習スタイルで指導を行っていました。縛られるものが少なく好きなものを好きなだけ探求し学ぶことで、より深い専門性が身につくと思いました。専門的な分野では、車の塗装、林業、溶接、看護、プログラミング、エンジニア系などの様々な分野に分かれていました。そこでは1年で基礎的な要素を学び、2～3年で実習を行いより実用的なことを勉強します。習ったことは他の人よりも大学の単位が取れやすく就職に有利になるなどの利点がありました。

日本は基礎を学ぶだけで自分で体験してその経験を培うことが少ないですが、私が行った所では実習で身につけた経験を活かして自分自身を成長させていました。

普通高校では、飲食を授業中にしてよいとされていて、お菓子を食ったりジュースを飲んだりしていました。最初の日に行った教室ではみんなでハロウィン用の大きなカボチャを切り抜いてジャック・オ・ランタンを作ったりしました。

なかでも凄いと思ったのは、ハロウィン当日の教室の廊下の飾り付けがどこの教室もとてもカラフルに装飾されていて日本とはスケールが全く違うとわかりました。

この学校ではハロウィンや姉妹都市といった歴史ある文化・行事を積極的にいき、守ってきました。こうする事で地域の人々との交流が活発化し、豊かな人材が育っていくと思いました。



メープルシロップ製造



カボチャの塗装



ハロウィンの授業

## 5 まとめ

海外派遣に行ってみて、日本で暮らしているだけでは得られないような体験が出来て良かったと思えました。学校生活だけではなく日本とは全く違う暮らしや文化、歴史があるとわかりました。特に、小学校では骨の採取を小さい頃から体験できることは、フクロウやミミズクの主食がわかるので貴重だと思えました。

これらの体験は一人でできたわけではありません。一緒に行き下さった職員の方や支えてくれた仲間、ホストファミリーの皆さんがいないと出来ませんでした。この海外派遣を通してとても貴重な経験と、最高の仲間達に出会えたことが忘れられない思い出になりました。

## 1 研修テーマ

日常生活の違いについて

## 2 テーマ設定理由

前に私の家に交換留学生が来たとき生活する中で、違いがたくさんあったから。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで調べたところ、

- ・家の中には、土足で入ってもオーケー。
- ・スーパーなどでは、会計前に飲食オーケー。
- ・レストランでの支払いはテーブルで、お金を置いたら店員の確認無しで帰って良い。

## 4 研修報告



ラットランド市に行って、私の生活との違いが多いと感じたのは、ラットランド高校です。違いを挙げていくと、

- ・学校全体と敷地面積が大きい。体育館は私の学校と同じくらいでしたが、一つ一つの教室が大きく、実際に車などをペイントする部屋や大きな食堂もあって学校自体が大きかったです。また、学校と離れた小屋や陸上やサッカーができる運動競技場があるため、敷地

面積もとても大きいです。

・制服がなく、私服で過ごしている。みんな私服で、制服らしきものを着ている人は見なかったです。ハロウィンの時期だったので、仮装をしている人が多かったのですが、私服の人もいました。私服の人は、おしゃれよりもラフで動きやすい服装の人が多く感じました。私の学校は制服ですが、私服は個性を出せていいと思いました。

・授業中に立ち歩いたり、お菓子を食べていたりしても、先生は注意をしません。私の学校は授業中に立ち歩いたら先生に注意されるし、ましてやお菓子を食べていたら職員室行きです。また、ラットランド高校では、自分のタブレットで韓国ドラマを見ている人がいました。私の学校では自分のタブレットやスマートフォンを持って行ってはいけません。支給されたタブレットを使うのですが、授業とは関係ないことをしていたら注意されます。とても自由だと感じました。



・食堂がある。私の学校は食堂はなく、各クラスに配膳されます。ラットランド高校の食堂は長テーブルやイスがたくさんあって、教室よりも広かったです。私の学校の給食は、メニューが決められていますが、ラットランド高校では、食堂にあるものの中から好きなものを選ぶこ

とができるようになっていました。

・自分専用のイスや机がない。何年何組というような自分の教室がそもそもなく、自分の席というものもありません。私の学校は自分の教室があるし、自分の席もあります。授業を受けるときは自分の席に座って受けます。しかし、ラットランド高校の授業を見学したときは、一人の生徒が二席分使っていたり、ある生徒がいなくなって次に入ってきた生徒が同じ席を使っていたりと、席が自由でした。席が自由だと、友達などと隣に座ったりできるので良いと思いました。



・専門的な学習をしている。私の学校では国語、数学、理科、社会、英語や技能教科など、決められたことを勉強しますが、ラットランド高校では、機械や皿の絵付けなど、自分で選んで学習することができます。高校だからということもあるかもしれませんが、私の学校よりもよりこれからにつながることを学習しているなと思いました。

・机とイスがつながっている。すべての教室ではないですが、いくつかの教室の机とイスがつながっていました。座るときは片側からしか入ることができないなどのデメリットがありますが、荷物を置く場所があることや、机を運ぶときに楽なことなど、良いところもあって私的にはつながっているほうが良いと思いました。



## 5 まとめ

私がラットランド高校を見学して一番感じたことはとても自由だということです。私の学校よりも、ラットランド高校は自分で選択し、決めたりすることが多いと感じました。これにより、日本よりもアメリカのほうが技術などが進んでいるのかなと思いました。私の学校はまだ専門的なことを学べないので、まずは五教科や技能教科をしっかり勉強して、高校に行ったときに専門的なことをきちんと勉強できるようにしたいです。

## 1 研修テーマ

ラットランドの文化や食べ物について

## 2 テーマ設定理由

どんな文化があるのか、どんな食べ物を食べているのか知りたかったから。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで調べたところ、

- ・ラットランド・ハロウィン・パレードが1960年以来毎年開催されている。

## 4 研修報告

- ① ラットランドハイスクールで食べたピザはとても大きく、トマトやチーズがのっけていて日本で食べるピザと同じような味でお腹いっぱい食べました。

ホストファミリーのお家での朝食は、ホットケーキやサンドウィッチがほとんどでした。特産品のメープルシロップが美味しく、たくさん食べました。リンゴなどのフルーツやブルーベリーのスムージーを作ってくれました。夕食には、ステーキやハンバーガーを作って食べました。

- ② 初めてランタン作りをしました。カボチャが大きくなり抜く作業が難しかったですが、うまく出来上がりました。10月31日ハロウィンの日は、学校に衣装を着ていた生徒がいて楽しそうでした。トリックオアトリートでたくさんのお菓子をもらって歩きました。「トリックオアトリートはハロウィンのアメリカの伝統です。」とファミリーが話していました。パレードではお祭りのように盛り上がっていてとても楽しかったです。子供から大人までみんながパレードの準備をして協力して成り立っていることがわかりました。



ランタン作り

- ③ アートウォークで色々な壁画をみました。大理石で作られた像があり、ラットランドが大理石の産地だという事がわかりました。



壁画

- ④ キリントン山脈での山の冒険は、初めての登山で道のりは長く感じました。雪が降っていてとても寒かったが、頂上まで登った時は絶景で達成感がありました。



キリントン山脈

## 5 まとめ

今回、海外派遣に参加して毎日本当に楽しく過ごしました。初めは英語が通じなかったらどうしようという不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーと会って、みんながゆっくり話してくれたり、単語だけで伝えてくれたりしました。最初はジェスチャーで表現しあうことが多



かったですが、だんだん会話も少し聞き取れるようになり、ホストファミリーの気遣いや優しさに感謝の気持ちでいっぱいです。

帰りの飛行機はトラブルがあったけれど、安全にサポートしていただいて無事に帰ってくる事ができました。引率していただいたリサさん、事前研修でお世話になった海外派遣事業の皆さん、本当にありがとうございました。

## 1 研修テーマ

外国の食べ物について学びたい。ハンバーガーのサイズや、スルメが海外で売っているか。しょうゆ煎餅やざらめ煎餅は海外の人の口にもあうのかなどを調べたい。

## 2 テーマ設定理由

ハンバーガーなどのファーストフードのS、M、Lのサイズが日本と比べ大きいと聞いたから。私の好きな煎餅は日本で定番のお菓子なので、海外の人の口にも和菓子はあうのかとても気になるから。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで外国人に人気のお菓子について調べました。和菓子は煎餅とあられ、おかきなどが人気です。他にも柿の種やかっぱえびせん、ハッピーターンなども人気なんだそうです。和菓子以外にはキットカットやたけのこの里、白い恋人、カントリーマアム、じゃがりこなどが人気です。

## 4 研修報告

私が好きなスルメは私が行ったスーパーにありませんでした。ですが、ホストファミリーにハッピーターン、キットカット、ポッキーなどの日本のお菓子を食べてもらいました。ハッピーターンやキットカットを食べた時は、すごくおいしいと言っていました。ですがポッキーを食べた時は、反応が薄かったです。

私のホストファミリーは郊外に住んでいて、通学途中に車の中からラットランドの町を見ることができました。市内にはいくつものハンバーガー店などの飲食店がありました。ホストファミリーと事前のやり取りで私がハンバーガーを食べたいと伝えていたので、豪華なレストランに連れて行ってもらいました。私は、レタス・ベーコン・トマト・お肉が挟まっているハンバーガーを頼みました。テーブルに料理が運ばれてきた時、「これ私の？」となるくらい想像の倍大きく、私が今まで食べた中で一番大きかったです。お肉もジューシーでトマトも厚く、ボリュームのあるハンバーガーでとても美味しかったです。最終的にハンバーガーは食べることができましたが、同じお皿に乗っていたポテトやベーコンは食べきれず、持ち帰りました。

ホストファミリーデーにかぼちゃのランタンを作りました。くりぬいたかぼちゃの種を洗いオリーブオイルをかけて塩を振ったものを、オーブンで焼きました。塩とスパイスの2種類の味を作り、味はポップコーンのようでした。

お昼にチャーハンを作ってくれました。初めてタイ米を食べましたが、美味しくておかわりして食べました。私はいつも水を飲んでいましたが、ホストファミリーのみんなは「アップルソーダ」を飲んでいました。アップルソーダは地下室の冷凍庫に沢山保存してありスパイスが入っていました。

次の日のホストファミリーデーに行ったトウモロコシ畑の迷路のゴールに、ホットスナックが売ってありました。ドーナツを買いみんなで食べました。日本の駄菓子「ヤングドーナ

ツ」の少し甘いような味でキャラメルのような、ピーナッツのようなソースをつけて食べました。すごく美味しかったです。

## 5 まとめ

私の研修テーマである「外国の食べ物」については現地に美味しいと思うものがたくさんありました。ですが、スパイスの入った飲み物などが私は好きではありませんでした。私のホストファミリーに日本のお菓子を食べてもらったところ、柿の種やキットカット、ハッピーターンなどは好評でした。ポッキーは細くて、味が薄かったのか微妙な反応でした。私たちが食べているものは日本食だけなわけではなく、ハンバーガーやポテトなどのジャンクフードも時々食べます。それと同じようにアメリカでも日本の食べ物のお店があることを知り驚きました。食べた感想はアメリカのお店よりも日本のお店の方が美味しいと思いました。もっとたくさんの人に日本の美味しい食べ物を食べてもらいたいです。

海外派遣に参加してたくさんの人と仲良くなれたと思います。一緒に海外に行った仲間や現地で関わってくれた人達と仲良くなることができ、とても嬉しいです。ラットランドでホストファミリーと話したかったことや聞きたかったことがたくさんあります。なのでもっと英語を勉強して翻訳機がなくても自分の言葉で伝えられるように頑張りたいです。



ラットランドの日本料理のお店↑



ホストファミリーデーで作った  
ランタンのカボチャの種↑



←バニラアイスかと思った  
バターのパンケーキ

ホストシスターが作ってくれた  
いちごいっぱい  
のバニラ味のスイーツ→



## 1 研修テーマ

海外の食事は日本の食事とどのように違うのか調べたいです。特にマナーや料理などの違いを見つけていきたいと思いました。食事のこと以外でも生活などもどんな違いがあるのかを知りたいです。

## 2 テーマ設定理由

SNS が普及し多くの情報をそこから得ることができますが、それで満足するのではなく小さな発見でも、この目で見て感じられる大切さを感じたいです。例えばハンバーガーと日本のハンバーガーは大きさが違うと知って、どの位の大きさなのかとても気になったからです。大きさだけでなく、味や食感はどうなのか自分自身で感じ、知ってみたいからです。

## 3 テーマについての事前調査

私は、インターネットや英会話教室講師の柏葉公平さんから話を聞き、マナーなどのことを詳しく事前調査しました。乾杯をするときは、日本人はグラスのところを見る人が多いですが、アメリカではグラスの方ではなく相手の目をしっかりと見て乾杯をします。そして話すときも、相手の目を見てしっかりとアイコンタクトをとりながら話します。このことから私も、アメリカの人など関係なく、話すときは相手の目をしっかりと見て話すことを意識しようと思いました。

## 4 研修報告

実際に行ってみて感じたことは、アメリカの食事はとても甘いものが多いということです。私が行ったラットランド市では、メープルシロップが人気でお店の中にメープルシロップを作る機械があるほど人気なので飲食店のテーブルの上には必ずメープルシロップが置いてありました。日本では、そこまで口にしないのですが、ラットランド市の人たちは、日本より物凄く甘いメープルシロップを大きいスプーンにたっぷり乗せ、そのまま飲んでいてメープルシロップは飲み物なのだと思います。ハンバーガーの大きさは、日本のマクドナルドよりとても大きく、食感は日本のより少し柔らかかったかなと思います。ジュースも知らないものしかなく、コーラのチェリー味など少し変わったジュースがほとんどでリンゴジュースがすっぱいなどの予想と違う味に驚きました。私が唯一飲めたのはスプライトのバニラ味でした。

食事の仕方では、私のホストファミリーは家族全員がちゃんとそろってから食べるがありました。が、大体はお腹が減ったら軽いものを作ってもらい食べるが多かったです。

テーブルマナーは、食事をする際には必ず多数の紙ナプキンがあったのと飲み物が必ず付いてくるなど私は感じました。私が行った店などは、自分で取りに行くドリンクバーがなく注文するというが多かったです。

このことから、アメリカでは日本とは全然違く、日本のものより甘いものやソフトのものが多く、種類やマナーも違うことがわかりました。

## 5 まとめ

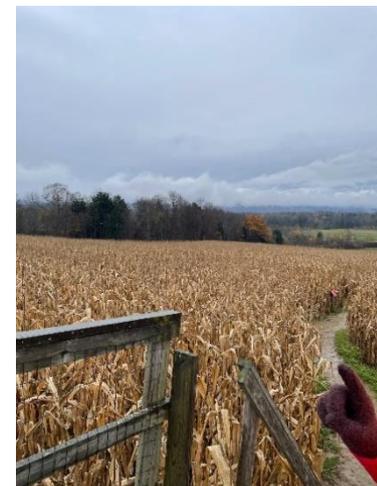
海外派遣事業に参加して感じたことは、SNS など画面越しで見ていた海外はとても予想より

素晴らしく、人も温かく毎日が幸せでした。

初めての体験や世界を見れ、海外の価値観がガラッと変わりました。今までは、海外はすべてが全部都会などと思っていました。けれど、本当は東京みたいではなく自然豊かで動物もたくさんいて、行事にもみんなが全力で楽しみとても暮らしやすく、まるでファンタジー世界みたいでした。

反省は、少し翻訳に頼っているところがあったので次は、もっと英語力をあげて一人でまた海外に行ってホストファミリーに会いに行きたいです。

今後の目標は、自分にはまだまだ全然足りない所がありますが、今回の経験は人生の中でいきっかけだったと思います。この海外派遣事業を活かせるような CA や通訳者などの海外と交流できる職業を目指し、あの時行ってよかった、がんばったかいがあった、と感じられるようにしたいと思います。



## 1 研修テーマ

「学校のルールや生活の違いについて」調べました。

## 2 テーマ設定理由

テーマの設定理由は、アメリカと日本の学校の違いが、このプロジェクトに参加する前から気になっていたからです。

## 3 テーマについての事前調査

事前調査では、ネットを使ったのですが、アメリカの学校は日本の学校と比べて全般的に「自由」と記載されていました。特に日本と比べ、見た目についてのルールが大きく違いました。また、勉強面でも宿題は基本数学だけで、それ以外の教科はプリントで出たりすることが多いなどの違いがありました。

## 4 研修報告

実際に行ってみて、最初は英語が伝わるかななどの不安もあり、とても緊張していました。ですが、頼もしい引率の方や、最高の友達と一緒にフライトの時間を過ごすうちに、アメリカに着く頃には、緊張がワクワクに変わっていました。自分が行ってみて、最初に日本との違いを感じたのは寒さでした。時期は10月と11月の境でしたが、向こうはとても寒く、最終日には思いがけず雪が降り、自分にとって今年の初雪になりました。また、アメリカについてすぐに乗った車にも違いを感じました。全員分のスーツケースが余裕で乗るような車でとても大きかったです。

ここからが本題で、アメリカに着いて次の日にはラットランド市に移動し、向こうの学校に行きました。学校に着いたら、学生たちの活気溢れる声が聞こえてきました。学校は日本の様な作りと違い、下駄箱はなくとても開放感のある学校でした。ちょうど時期的にハロウィンだったので、学校内はハロウィンの本格的な飾り付けがされていました。中には、ハロウィンの仮装をしている生徒もたくさん見ました。そこにも日本との違いを感じることができました。授業は立ち歩いたり自分の好きな席に座ったりなど、とても自由でした。また、とてもフレンドリーな子が多く、歩いているだけでハイタッチを5回もしました。

そして、やはり向こうの人は背の高い人が多く、自分もバスケットボールを向こうの学生たちとしましたが、とてもディフェンスやプレーに迫力がありました。また、日本の中学校では、先生が各教室を回ったりしているのが大半ですが、私の行った学校では生徒が各授業の先生がいるところに移動していました。それに、授業では生徒が積極的に手を挙げて発言をしていてとても参加型で、生徒が主体となっているように感じました。しかし、日本とあまり変わらない部分もありました。給食もそのうちの一つで、かなり違うのかと思っていましたが、日本と同じようにみんなが決まった献立を食べていました。教室3クラスほどの人数で大きなところで食べていて、飲み物はただの牛乳とチョコレート牛乳の2種類がありました。



そして、私の泊まったホームステイ先は三人兄弟の家族で、よく喧嘩をしていました。自分の家も男子三人兄弟なので、そういうところは国が変わっても同じだと感じました。ホームステイ先ではとても楽しく過ごすことができ、特にご飯が見たことのないようなものばかりで、毎回驚かされました。

## 5 まとめ

このような素晴らしい経験を通して、初めての海外でしたが、とてもいい思い出を作ることができました。帰ってくる時は少し寂しかったですが、今度は自分の力で海外へ行きたいと思いました。また、このような経験は沢山の人の協力の上で成り立っていることなので、この経験が無駄にはせず、自分も頑張っている人のために全力を尽くせるような人間になりたいです。今回は自分の視野が広がった旅になり、本当に行って良かったです。このような素晴らしい経験をさせてくださった全ての人に感謝したいと思います。



# クリントン村派遣研修報告書



令和5年10月26日～11月4日

## クリントン村派遣

### 派遣生

花巻中学校	かくだて みさ 角館 実咲
矢沢中学校	さいとう はるか 斎藤 悠
東和中学校	さとう るい 佐藤 琉唯
宮野目中学校	たかはし まお 高橋 麻央
宮野目中学校	ほりうち たいら 堀内 大楽
西南中学校	やえがし あゆみ 八重樫 愛弓

### 引率

花巻市国際交流室 主事	ささき みく 佐々木 未来
-------------	------------------



## 1 研修のテーマ

- ・食生活について
- ・クリントンの学校について

## 2 テーマ設定理由

私たち日本人の食生活と、海外（クリントン）の食生活で共通点はあるのか、また相違点はあるのか気になったからです。

そして、私たちは平日の半分以上を学校で過ごしていて、私たちが普段普通だと思っていることは、クリントンの学校ではどうなのか、タイムテーブルはどうなっているのか、自分の普段の生活と比べて調べてみたいと思ったからです。

## 3 テーマについての事前調査

テーマについて事前にインターネットで調べたところ、ウィスコンシン州は酪農が盛んで、チーズなどの乳製品の生産が行われています。特にチーズの生産が盛んに行われています。

学校生活については小学校だと時間割はなく、中学校だと時間割があり、7時間授業で日本の高校にあるような選択科目があるそうです。

## 4 研修報告

〈 食生活について 〉

私のホストファミリーの家では、基本的に自炊する習慣がなく、朝ご飯のパンケーキ以外は毎食ファストフード店で食事をしました。ファストフードの中でもハンバーガーを食べることが多かったです。ハンバーガーはホストファミリーのみんなが大好きでした。ハンバーガー以外にも、サンドイッチやメキシコ料理、中華料理などのファストフードがありました。ドライブスルーも発達していて、日本ではドライブスルーのあるお店とないお店がありますが、私が行ったアメリカのファストフード店では、ほぼ全てのお店にドライブスルーがありました。ドライブスルーは車から降りずに楽に買えるので、たくさんのファストフード店にあるのかなと思いました。

また、注文するときに、ホストマザーが店員さんと「How are you?」などと会話していて、日本では店員さんと「調子はどうですか?」と聞かれることはないので、驚いたし、店員さんともしっかりコミュニケーションをとっていいなと思いました。

そして、私が行ったアメリカのファストフード店ではドリンクがおかわりできました。日本のファストフード店ではドリンクはハンバーガーのセットがおかわりできないので、いいサービスだなと思いました。

このように、ファストフード店は手軽に食べられるので、子どもから大人まで幅広い年代の方に愛されてきたことが分かりました。



〈 学校生活、授業風景について 〉

学校への登校手段ですが、クリントンには一つの小学校と一つの中高等学校しかなく、主にスクールバスや車での登下校が多いです。ホストスチューデントも車でお母さんに送ってもらってました。私が通っている学校では、主に自転車で登校する人が多いので驚きました。クリントンの学校でも晴れていたら自転車で登校する人もいるそうですが本当にごく一部だけだそうです。

私は、クリントン中等・高等の学校生活を一日体験してきました。生徒は朝に左胸に手を当てて、「忠誠の誓い」を暗唱していました。タイムスケジュールは一時間約45分で、午前は5時間、午後は3時間の計8時間授業で、細かく分刻みに分かれていました。黒板に文字を書いて説明する先生はほとんどいなくて、口頭での説明が多かったです。テレビやプロジェクターを使って説明する先生もいました。生徒の授業の受け方で私が驚いたのはノートをとっていなかったところと、授業中お菓子を食べたり、飲み物を飲んだりしていたところです。日本ではノートをとる、お菓子を食べないというのが当たり前ですが、私が行った学校ではそれは当たり前ではないことが分かりました。



授業風景  
(お菓子をたべながら授業を受けている)

〈 食堂、図書室について 〉

まず、食堂についてですが、日本の給食とは違って、自分で食べたいものを選んでとるバイキングみたいなスタイルでした。ランチがAランチ、Bランチ、Cランチと時間が分かれていて、AランチとCランチは約25分でBランチは約20分と日本と比べて少し短いです。ランチが終わったら、昼休みはなくすぐに授業がスタートするので、とてもハードだなと思いました。



ランチ

次に、図書室ですが私が通っている学校より、少し本数は少ないように感じました。しかし、本を座って読めるスペースが充実していて、掃除も行き届いているきれいな図書室でした。いろいろなジャンルの本がそろっていて、なかには日本の漫画もありました。「ワンピース」、「僕のヒーローアカデミア」、「ドラゴンボール」などの日本でも人気のあるマンガがクリントン中等・高等学校でも人気なのを知って、嬉しいなと思いました。本だけでなく、文房具などが売っていて生徒が買えるようになっていました。学校で文房具が買えるなんて私の学校ではあり得ないのですごいなと思いました。



図書室にあった  
日本の漫画

5 まとめ

8日間、クリントンで過ごし、海外の文化に触れてたくさん学べたし、いい思い出ができたのでよかったです。私は英語がうまくなくて事前研修のときから、現地に行って英語が伝わるのか、ホストスチューデントと仲良くなれるのか不安でした。実際、英語を話してみると伝わ

らないこともありました。スマホの翻訳を使っていたけれど、使えば使うほど「なんでこんなことも言えないんだろう」と自分の英語力の低さを感じました。でも、ジェスチャーをつけて会話すれば相手もわかりやすいと気づくことができたのでよかったです。ホストマザーもホストチューデントも真剣に私が何を伝えたいのか、聞き取ろうとしてくれて嬉しかったです。

今回、自分の英語力の低さを知ったことで、もっと英語を学びたいと強く思ったし、新しいことを知って、自分の経験、知識が広がりました。今後は、世界のことに興味を持ったので、いろいろな国のことや言葉を調べて、学んでいきたいと思いました。

最後にこのような貴重な体験をさせてくださった、花巻市、国際交流協会の皆様、私たちのお世話をしてくださった引率の方々、そしてクリントン村の方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

## 1 研修テーマ

アメリカの食文化について

## 2 テーマ設定の理由

「食べる」ことは、世界中どの家庭でも毎日行われているもので、生活に欠かせないものです。食事には、その地域の文化や特色があらわれていると思います。そこで、食文化を調べることで、その特色や考え方が見えてくると考え、アメリカでの食事や軽食の内容、形式などについて調べようと思いました。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで、アメリカの食事やお菓子について調べました。調べたところでは、食事では、量が多い、味が濃い、朝昼は質素な場合が多い、という特徴がありました。お菓子では、食事と同じく量が多い、味が濃い、また、甘い、スパイスのような味も多い、という特徴があることがわかりました。

## 4 研修報告

<朝食について>

ホームステイ先の朝食は、パンケーキ、ジャムパン、ヌードルなどでした。これらを主食とし、副菜としてチーズやハム、スモークサーモンやフルーツが見られました。カフェなどですませることもありました。朝食にかける時間は5分～10分程度、作業のように食べているように思いました。クリントン中等・高等学校では授業中の飲食が可能だったため、朝にしっかり食べる必要性がないのかもしれないと考えました。また、朝からいわゆる菓子パンなど、おやつのようなものを食べていることに驚きました。総合して、朝食をしっかり食べる習慣がないように思いました。



ホストファミリーの家で出た朝食

<昼食について>

昼食は、滞在期間中ほとんど外食でした。その中でも、ハンバーガー、ピザがほとんどでした。それほど、クリントンではハンバーガーとピザがよく食べられているように感じました。朝に比べて、昼はしっかりと食べている印象でした。ハンバーガーやピザのほかには、日本食レストランで食べたり、バーベキュー店で食べたりしました。また、給食は2つのメインから選び、ほかの好きなものを選んで乗せる形式でした。私はハンバーガーにしたのでバンズとポテトはもらって、選んだ具を挟み、チョコレートミルクとお菓子を選んで取ってきました。生徒による配膳がないこと、甘いものやお菓子がおいてあることも驚きでした。給食時間は短く10分ほどで、急いで食べて次の授業に向かう様子が見られました。



マクドナルド



学校給食



家ででたタコス

### <夕食について>

夕食は、タコスやビーフシチュー、そのほかにも、昼食同様ハンバーガーやピザも多かったです。魚が出ることはありませんでした。いろいろな国の料理が出されて、すべてボリュームーだなと思いました。朝食、昼食は簡単に済ませることが多いように思いましたが、夕食は一番「食事」を楽しんでいるように思いました。しかし、遅い時間に帰ってくると夕食を食べないこともありました。



お店で食べたピザ

### <軽食などについて>

クリントン中等・高等学校では、授業中などの飲食が可能となっています。また、給食でお菓子などを配られることもあります。チョコレートやキャンディ、プレッツェルなどの甘い物や、ポップコーン、チップスなどのスナック菓子が多く見られました。そして、それを頻繁に食べていました。それが朝、昼の食事を比較的簡単に済ませている理由の一つになっているかもしれないと思いました。

### <食べ物の味について>

全体的に、味が濃い、極端に甘い、しょっぱいと感じました。食事については、ハンバーガーやピザをはじめ、一つで食事が完結するものも多かったため、大味なものも多かったと感じました。また、スパイスの効いたものも非常に多かったです。何を食べるにも何かしらのスパイスが入っている印象でした。それはお菓子も同様で、ほとんどのお菓子里にシナモンなどのスパイス系の風味を感じました。味に関しては、最も日本と違う部分で特徴的だと思いました。

### <感想>

向こうでは、食べ物を残すことが当たり前のようでした。日本では、残すのはもったいない、失礼だという考え方が一般的だと思います。私もそう思っていたのでとても驚きました。クリントンでは、おいしく食べて、自分がもう満足したと思ったタイミングで食べ終わる姿が見られました。そのためか、飲食店には持ち帰り用のパックがあり、割とどこにでも残食を捨てる

ゴミ箱がありました。

水道水はほとんど飲まないということにも驚きました。基本的に、ペットボトルのミネラルウォーターを飲んでいました。水道水をいつでも飲める国は、世界でも少ないようです。

## 5 まとめ

今回の旅は、私にとって初の海外でした。私が行ったクリントン村は、アメリカの中でも小さな村です。そこで触れ合うみんながあたたかくて、優しく、とても楽しい日々を過ごしました。ホームステイ先での初日は、寂しくなって正直帰りたと思う瞬間がありました。しかし、ホストファミリーが私を楽しませるためにたくさんの工夫をしてくれました。学校の友達も、興味を持って仲良くしてくれました。とても嬉しかったし、来てよかったと思える時間をたくさん作ってくれました。日本に帰る日、家族とハグをしてからバスに乗りました。悲しいと言ってみんな泣いていました。こんなに愛されていたんだなと実感することができました。まだ中学生の私が、こんな海外経験を出来たことは、とても貴重で、かけがえのないものです。また会いたいし、とても大好きな家族と、友達とめぐり合えてとても幸せで充実した1週間でした。この海外派遣にかかわってくれたすべての皆さんに対して感謝しかありません。本当にありがとうございました。



私のホストファミリー



仲良くなった友達

## 1 研修テーマ

ウィスコンシン州の植物について

## 2 テーマ設定理由

ウィスコンシン州は、四季折々の表情豊かな自然に恵まれた場所と知り、日本と同じ点や違う点を知りたいと思ったからです。また、見たことのない植物や花を見てみたいと思いました。

## 3 テーマについての事前調査

州の花として決められているのはウッドバイオレット。また、以下の3点も有名。

- ・品種改良されていないバラ、ワイルドローズ。
- ・優しい感じで、甘い香りがする、ホワイトスイレン。
- ・イチゴの木ともよばれる、アービュートス。

## 4 研修報告

「植物園」ホストファミリーに私は植物が好きだということを伝えていたので、植物園に連れて行ってくれました。植物園は天井の高いビニールハウスのような温室になっている建物と、外のスペースに分かれており、ハロウィンの時期ということでユニークな装飾がされていました。バナナやパイナップルの木があり、成長過程を初めて見ることができ、うれしかったです。かわいらしい花もたくさん咲いていました。川のように水が流れているところには赤やオレンジなどのきれいな色の鯉が泳いでいて驚きました。外のスペースには、白鳥がいる池がありました。思ったより広く、一周で朝の散歩に丁度よさそうでした。池の真ん中の噴水には虹が出ており「Rainbow!」とホストファミリーと盛り上がりました。虹を見て、うれしい気持ちになるのは日本と一緒になんだなあと感じ、さらに嬉しくなりました。日本でもよく見かける紫陽花も咲いていました。色もほぼ同じでした。事前に調べたバラは、やはり特別なようでたくさん植えられていました。見ごろの時期ではなかったのですが、様々な種類のバラを見ることができました。

「博物館」植物園と同じ日に、博物館にも連れて行ってもらいました。虫が大きかった時代の植物や、その植物の化石等を見ることができました。普段、博物館を訪れることがあまりなかったので新鮮でした。博物館には、花の匂いのサンプルでかぐことができる展示がありとても驚きました。どうやって作っているのかなあと思いました。もちろん、全部嗅いできました。日本にある花もあったのですが、日本にはない花の匂いは嗅いだことのない匂いで、不思議な感覚になりました。



ガイコツが鯉釣り



植物の化石

「日本との違い」他に私が感じたことは、葉っぱの色が違うということです。鮮やかではっきりした色味の葉っぱが多く、とてもおしゃれに感じました。海外の写真などが魅力的に感じるのはそういうところもあるのかもしれないと思いました。

## 5 まとめ

今回の海外派遣では、現地の植物や花をみることができたことはもちろん、ホストファミリーやその友人たちと過ごした時間がとても楽しかったです。みんな仲が良く、優しくかったので、帰る頃には、もう少し滞在していたいと思いました。日本でもアメリカでも「14歳」は同じように「青春」を楽しんでいて、恋心が見えたりすることもあり、興味深かったです。

会話では、翻訳アプリを使うことが多かったのですが、単語やジェスチャーで言いたいことが伝わった時は感動しました。勉強してもっとたくさんの会話が英語でできるようになりたいと思いました。

今回の海外派遣研修にあたり、国際交流協会の方々、関係者の方々、ホストファミリーの方々、家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。様々な人に支えられ、忘れることのない貴重な経験をさせてもらったと感じています。最初は不安だった気持ちも、帰国してから振り返ってみると、「良かった！」に尽きます。本当にありがとうございました。余談ですが、私は「ごはん」が大好きなのですが、アメリカに滞在中「ごはん」が恋しくて、帰宅してまず食べたのはごはんでした。ホストファミリーにごはんとおもちを食べてもらいました。日本には他にもおいしいものがたくさんあるので、ぜひ、来てほしいです。少しの間日本を離れて日本の食文化の素晴らしさを再認識することができました。



博物館にあった花の紹介



ホストファミリーと感動した噴水の虹



植物園のパイナップル



博物館での集合写真

## 1 研修テーマ

- (1) 日本とアメリカの授業の内容について
- (2) アメリカでのイベントについて

## 2 テーマ設定理由

前に学校でアメリカの学校の様子を少し学習して、日本と違うということがわかり興味がわいたため。

アメリカへ行く際にハロウィンと時期が被り、アメリカのハロウィンは日本より大規模にやると聞いたことがあり、私の家ではハロウィンの日はこれといったことはしないので家族の行事ではどのようなことをするのか、また、友達とはどのようなことをするのか気になったため。

## 3 テーマについての事前調査

インターネットで調べたところ、アメリカの授業は一般的に、「生徒主体」授業で、日本のように生徒は教室で授業を受け、知識・学力を上げるという一方通行の授業ではない。

アメリカの義務教育は「小学校 5年 中学校 3年 高校 4年」または「小学校6年 中学校 2年 高校 4年」の12年間で飛び級の制度がある。

教科ごとに違う教室に移動する。

トリック・オア・トリートに参加したくない家は玄関の電気を消しておく。

トリック・オア・トリートの時間は、18時～20時くらい。

## 4 研修報告

### (1) 授業の内容について

クリントン中等・高等学校で、1日ホストスチューデントと一緒に授業を受けました。その学校では日本のように黒板ではなくホワイトボードを使っており、ホワイトボードもほぼ使っていませんでした。先生が授業の最初に配ったプリントや口頭で言ったことをパソコンにまとめていて日本とは全然違う印象を受けました。

授業の時間が日本の学校のように一コマ何分と正確に決まっているわけではなく45分から50分と時間がまちまちで、私は時間が決まっている学校で過ごしているので、慣れるまでに時間がかかりました。

また、授業が始まる前に火災報知機のようなジリリという音が鳴りととても驚きました。

日本では学校で英語を習いますがクリントン中等・高等学校では英語の代わりに、スペイン語やドイツ語を習っていました。私はスペイン語の授業をうけましたが、日本語の発音にはない巻き舌があって難しかったです。スペイン語の授業は好きなアーティストの紹介文を作るというものでした。私も英語の時間に同じことしたのですが、母国語ではない言語を使って文を作るのはやっぱり勉強になるのかなと思いました。

教科の先生ごとに教室があって、生徒がそこまで行って授業を受けていましたが、私が特に面白いなと思ったのが、先生ごとに教室に個性が出ていたことです。スペイン語の教室には万国旗が飾られてあったり、英語の教室ではホワイトボードの下が七色に光っていたりしました。

## (2) イベントについて

ハロウィンでは、4日くらい前に日本でいうリサイクルショップのようなところで仮装の衣装を買いに行きました。私がお世話になったホストファミリーではホストファミリーデーにジャック・オー・ランタン用のカボチャを農場まで買いに行きました。畑一面に30cm以上のカボチャがありなかなか見ることのできない光景でした。

初めてカボチャを彫ってみたけど意外と硬くてカボチャの上の部分切るだけでもかなり時間がかかりました。私が驚いたのはカボチャを彫るための専用の道具のセットがあることです。のこぎりの様なものから、スプーンの様なものまであってこれがあればジャック・オー・ランタンを作ることが出来ます。私が特に難しいなと感じたのは蜘蛛の巣の細い直線の部分で、途中で切れてしまいました。ジャック・オー・ランタン作りは日本ではやらないので貴重な体験ができて楽しかったです。

## 5 まとめ

この海外派遣事業を通して私が感じたのは、日本人に比べ初めて会った人にも気さくに話しかけてくれる人が多かったことです。“Hey,”や“Is this your home?,”などをスクールバス中で言われ初日は驚いて何もできなかったけれど日がたつにつれてだんだんスクールバスのにぎやかさやアメリカの人の陽気さに慣れてきて私も“Hey,”と言ってハイタッチできるようになりました。ハロウィンでは私が日本人だとわかると、片手で掴みきれないほど大量のお菓子をくれました。

この他にもホストファミリー達とUNOをしたり、マリオカート、マリオパーティーなど日本でも馴染みのあるゲームをしたりしました。

最初は英語が伝わらず帰りたと思ったこともありましたが、何とかジェスチャーと単語だけで会話をしていました。相手を困らせることが多かったかもしれないけれど、自分の英語が伝わったときは、嬉しかったです。意識して会話の中でジェスチャーをつけてみたところ、最初よりも私の思っていることが伝わりやすくなってジェスチャーは大切なことだと学びました。

この海外派遣は私のこれからの将来に必ず役に立つ経験だと思うので、この派遣に参加できたことに感謝して未来につながるよう、これからも努力していこうと思います。



図画の授業



一緒に折り紙



黄色いスクールバス



音楽の授業の様子



ホストチューデントと作った  
ジャック・オー・ランタン



庭先に置いていた釜（ハロウィン用）  
緑の煙が出ている

## 1 研修テーマ

- ・クリントン村の自然について…花巻市との違いはどうか？
- ・日本のマンガやアニメ、ゲームやスポーツがどれくらい知られているか？…生徒たちの流行や文化の違いなど

## 2 テーマ設定理由

僕は小さな頃から図鑑や動物園で世界中の動物や鳥を見ることが好きだったので現地の自然に興味を持ちました。

また、マンガやアニメ、ゲーム、スポーツに触れる機会は日本人なら多いですが、現地の子供たちは日本についてどれだけ知っているのか調べてみたいと思いました。

## 3 テーマについての事前調査

- ・クリントン村にはシカやカモ類など、たくさんの種類の動物が生息している
  - ・トランプなどのカードゲーム、テレビゲームもする
  - ・野球やバスケットボール、アメリカンフットボールなどのスポーツも盛ん
- 以上のことがインターネットで調べて分かりました。

## 4 研修報告

### ① 自然について

クリントン村はとても自然が豊かで、建物より緑がよく目に入ってきました。家の周りではよくリスを見かけました。花巻の家の近くでリスを見かけることはないのが驚きました。逆に花巻の家の近くでよく見かけるカラスやスズメなどの鳥類は見かけず意外でした。

各家の庭は野原のように広がったです。ホストファミリーの飼っているスクービーと言う名前の犬は僕が庭でボールを打つと拾ってきてくれたりと、人も動物ものびのびと過ごしているのだな、と感じました。

### ② 日本のマンガやアニメ、ゲームやスポーツについて

僕のホストステューデント、ジョンはゲームが大好きなようで日本でも有名なゲームをプレイしていました。また、ポケモンカードのコレクションを見せてくれて、ポケモンの話で盛り上がりました。

そして夕飯前に「Dr. STONE を知ってる？」と聞かれ、僕も好きなマンガだったので「もちろん！」と答えたら、一緒にアニメを観よう、と言ってくれました。日本でも有名なマンガですが、まさかアニメ版を観ようと誘ってくれると思っていなかったのが驚きました。セリフは英語だ



庭でスクービーと遊ぶ

ったのですが主題歌は日本語でした。その主題歌をしっかり聴いていたので、日本のアニメ主題歌は好かれているのかな、と思いました。また、クリントン中等・高等学校の図書室には比較的最近の日本のマンガも数多く置いてあったのが印象的でした。

このように、クリントン村の人たちは日本のマンガやアニメ、ゲームに触れる機会が多くあったように思います。そしてそれを生活の一部として楽しんでいることに、日本人としてとても嬉しく思いました。他にも「大谷翔平を知っているよ！」と声をかけてくれた生徒がいたり、ホストステューデントのジョンも NBA の動画で渡邊雄太選手を見せてくれたりと、海外に出て活躍している日本人選手のことを知っていることが分かりました。



図書室にあった日本のマンガ

## 5 まとめ

今回の海外派遣は僕にとって最高の思い出となりました。最初は英語を聞き取ることも話すこともできず不安だらけでしたが、ホストファミリーが翻訳アプリを使ってくれたり、色々工夫をしてくれたおかげで不安も徐々に減り楽しく過ごすことができました。

週末のホストファミリーデーには一緒にトランポリンパークに遊びに行ったり、NBA 観戦をしたり、五大湖のほとりや大きな植物園を案内してもらい、たくさんの思い出を僕に残してくれました。クリントン村自体は自然豊かな場所なのですが、車で行ける周辺にはシカゴやミルウォーキーなどの大都市があり、アクティビティには困らないし、むしろのどかで住みやすい地域だと思いました。広いアメリカの中のクリントン村で日本はどれだけ知られているのか、興味を持ってきているのか不安でしたが、スーパーマーケットにはお寿司が売られていたり、レストランで空席待ちの人がスマホで日本のアニメを観ていたり、至る所で日本の文化が浸透しているのを実感しました。

また、クリントン中等・高等学校ではチャイムの代わりにブザーが鳴ったり、授業中にお菓子を食べていたり、ジュース片手に会話していたりと、日本と違うところもたくさんあるな、と思いました。自由な服装や髪形で学校生活を送り、目が合うと微笑んでくれたり、「Hey！」と声をかけてくれたり、自由で感情を豊かに表現できる環境は素晴らしいと思いました。

今回の海外派遣を通して、ホストファミリーやクリントン村で対応してくださった先生方から、たとえ言葉は通じなくても、つたえようという思いが本当に大切に、挨拶や感謝の気持ちを素直に表し、思いやりの心を持つことや自分が挑戦することの重要性を身をもって学びました。派遣先でたくさんの人に助けてもらい、笑顔で過ごせたことを決して忘れず、これからは



NBA 観戦



お世話になったジョン

困っている人に積極的に手を差し伸べられる人になりたいです。

最後に、この海外派遣にかかわる国際交流協会の方々と関係者の方々、応援して下さった先生方や家族に対して感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい経験は一生の宝物になりました。本当にありがとうございました。

## 1 研修テーマ

日本とアメリカの授業や学校生活の違いについて

## 2 テーマ設定理由

日本の学校とアメリカの学校では考え方や過ごし方まで異なっている部分があるのではないかと考えたからです。

## 3 テーマについての事前調査

小学校でも飛び級や留年がある

中学校から高校まで私服が一般的である

小中高までが義務教育である

ということなどがインターネット上にあげられていました。

## 4 研修報告

### 【授業】

クリントンジュニア・シニアハイスクールではホワイトボードや、スクリーン使って授業を行っていました。すべての授業において、いくつかのグループに分かれていました。また、一人一人がパソコンを持っており、1時間パソコンで数学の問題を解いたり、社会のレポートを作っていたりして、IT化が進んでいるなど感じました。一方で、ノートに授業の内容をメモしている場面もありました。

私の学校では、黒板に書かれたことをノートに写したり、プリントを使って授業を進めていたりします。たまにパソコンを使う場面もありますが、クリントンジュニア・シニアハイスクールほどは使わないので、ほとんどの学習でパソコンを使っていてびっくりしました。

私が一番衝撃だったことは、授業中にお菓子を食べたり、立ち歩いたりしていたことです。私の学校では、立ち歩いたら注意されるし、お菓子を食べたりなどできません。クリントンでは当たり前のようにそのようなことをしているというところに、私の学校との大きな違いだなと感じました。しかし、お菓子などは良くてもスマートフォンの使用規制は徹底されていました。ロックのついたケースに入れて、先生にチェックしてもらっていました。自由の中でも、しっかりダメなところはダメと区別をつけていると思いました。

クリントンジュニア・シニアハイスクールと私の学校との大きな違いは3つありました。1つ目は、時間割、授業時間です。私の学校では50分授業で、4、5時間目の間には給食時間と昼休みがありますが、クリントンジュニア・シニアハイスクールでは、47分授業の8時間授業で、昼食の時間は授業と授業の間の25分間だけでした。2つ目はすべての授業が移動教室だったということです。私の学校では、先生が授業のたびに教室に来ますが、クリントンジュニア・シニアハイスクールでは生徒が先生のいる教室に移動していました。また、授業と授業の間がたった4分と短いので移動したらすぐに授業が始まってしまいます。私の学校も移動教室はありますが、毎回ではないので、移動が多くて疲れてしまう場面もありました。3つ目は制服ではなく、私服だったということです。私の学校では、先生に着替えていいと言われた時か、

3時間目の終わりにジャージに着替えます。クリントンジュニア・シニアハイスクールではみんな私服で、体育の時は着替えるという感じでした。また、ジャージも決まっているわけではなく、それぞれが動きやすい服を持参してロッカーに置いていました。

#### 【登下校について】

クリントンジュニア・シニアハイスクールではバスでの登下校が一般的だと聞いてびっくりしました。自転車や歩きの方は本当に少ないそうです。その理由はクリントン村には1つの小中高しかないからと聞きました。1つしかないのでたくさんの生徒が遠いところからスクールバスで登下校をしていました。私も実際にバスで登下校をしていましたが、ホストファミリーの家から20分ほどかかりました。また、多方面から人が集まっていたので沢山のスクールバスがありました。私の学校ではスクールバスで来る生徒はほとんどいなくて、車や自転車などで登下校する人が多いので、それを聞いてびっくりしました。

## 5 まとめ

私は7年前と5年前に姉がこの事業に参加していたのをきっかけにアメリカに興味を持ちました。

飛行機内ではいつアメリカに着くのかとワクワクが止まりませんが、いざ入国審査になると緊張して何もできませんでした。そこから不安がどんどん大きくなっていき、ホストファミリーに会ってもとても緊張していました。しかし、ホストファミリーはとても気さくで明るい人たちで、私が緊張して上手に話せなくても、目を見て話を聞いてくれたり、簡単な英語で話してくれました。言葉があまり通じなくても、たくさん笑い、本当の家族のように接してくれてとても嬉しかったです。

私はアメリカに行ってから、理事長に言われた「いかに自分が英語をできないか学んでください」の意味がわかりました。しかし、初めは聞き取るのも、話すのも全くできませんでした。アメリカでできた友達と話していくうちに、リスニング力が上がったということが自分でも分かるくらいになりました。テストでやっているリスニングとは比にならないくらい聞き取るのは難しかったですが、そう簡単に体験できないようなことができてとてもいい機会になりました。

今回「日本とアメリカの授業や学校生活の違いについて」というテーマで調べてみて、クリントンジュニア・シニアハイスクールでしか体験できなかったことや、気づけなかったことがあると思うのでこの様な機会に学べてとてもよかったと思うし、たくさん学んだことがありました。私の学校ではノーチャイム制で、時間への意識向上を心がけていて、5分前行動、3分前着席、2分前学習が行われていますが、遅れる人も未だにいます。クリントンジュニア・シニアハイスクールでは短い時間の中で移動したり授業の準備をしたりしていたことがすごいなと思いました。

今回私は、滅多にできない体験をさせていただきました。このことがきっかけで、アメリカへの興味がさらに湧いたし、自分の考え方や視野を広げることができたので、この経験を活かして、たくさん英語を勉強して、またクリントンに行きたいです。



【スクールバスの中の様子】



【授業中の様子】



【音楽の授業の様子】



【ホストスチューデントと私】

# 新聞記事



2023年度青少年海外派遣研修事業の出発式に臨む生徒や学生ら

胆江・北上・花巻地方

◆地域の情報や話題を  
お寄せください

水沢支社 0197(23)2111  
中部支社 0198(24)9055

# 海外研修 成長に期待

## 派遣 生徒、学生ら出発式

### 花巻

花巻国際交流協会（佐々木史昭理事長）の2023年度青少年海外派遣研修事業で、10月下旬から米国やオーストリア共和国の四つの国際姉妹都市などを訪問する花巻市の生徒や学生らの合同出発式は6日夜、同市葛の市交流会館で行われた。新型コロナウイルスの影響で事業は4年ぶりの実施。参加者は、夢と期待に胸を膨らませながら、約10

日間の研修へ決意を新たに

した。参加するのは市内9校の中学生24人と花巻東高校生2人、大迫高校生2人、富士大生1人をはじめ、教諭や市職員、同協会事務局員ら引率者を含む計37人。

米国ラットランド市（姉妹都市）と、同クリントン村（友好関係都市）は26日～11月3日の日程でそれぞれ7人、同ホットスプリングス市（姉妹都市）は11月6～15日の日程で12人、オ

ーストリア・ベルンドルフ市（友好都市）は同5～14日の日程で11人を派遣する。

出発式では派遣先別に参加者を紹介し、代表者が抱負を述べた。

ホットスプリングス市を訪ねる宮野目中2年米倉怜花さんは「姉妹都市提携30年を迎え、深い交流がある。花巻市と同様に温泉が有名なので、共通点や相違点なども見つけたい。海外で英語力やコミュニケーション力などを身に付け成長した姿で帰ってくる」と決意を語った。

佐々木理事長は「派遣先にはいろいろなチャンスがある。現地ではすべてイ

スでいろいろなことにチャレンジしてほしい」と激励。上田東一市長は「言葉が通じなくても友達になれる。違う文化で育った人たちが皆さんと同じ心を持っていることを経験し、今後の成長に役立ててほしい」と期待した。

いずれも滞在中はホームステイしながら現地の人々と交流し、花巻を英語で紹介するプレゼンテーションを行う。

岩手日日新聞社の許諾を得て転載しています

# 海外研修 絆深め

## 中学生ら成果発表

**花巻** 花巻国際交流協会と花巻市は10日、同市大通りのなはんプラザで「国際フェア in はなまき2023」を開いた。青少年の海外研修事業の成果発表や講演などを通じて花巻の国際交流と多文化共生に理解を深めた。

「『やさしい日本語』で多文化共生の地域づくり」をテーマにした仙台観光国際協会国際事業部長の須藤伸子さんの講演では、聴講者が「やさしい日本語」での自己紹介に挑戦。東和中学校2年吉澤亮太さん(14)は「自分が思っていることを伝えるのは難しい。伝えるにはジェスチャーを交え、相

### 国際フェア2023

手が知っている言葉を探りながらの会話を進めていくことが効果的だと感じた」と話していた。

青少年海外研修事業は、新型コロナウイルスの影響で4年ぶりに再開された。今年の青少年海外派遣研修事業は、市内9校の中学生23人らが10月下旬から11月中旬にかけて、姉妹都市や友好都市関係にある米国のラットランド市とクラリントン村、ホットスプリングス市、オーストリアのベルンドルフ市を訪問。



海外での研修成果を発表する生徒たち

姉妹都市提携30周年を迎えたホットスプリングス市を訪ねた宮野目中2年高橋陽輔さんは、研修成果として明確な意思表示と英語のリスニング能力向上を挙げ、「米国で出会った人たちとどんどん会話するうちに自然に意思表示や聞き取りができるようになり、自信を付けて帰国することができた。英語の勉強をして再渡米する機会があればスマホの翻訳機能を使わず自分の力で話したいと力を込めた。

国際フェアでは、音楽ライブパフォーマンスや青年海外協力隊の体験談発表、米国発祥のスポーツや花巻の工芸絵付けの体験、市内団体が取り組む国際交流活動や姉妹都市提携30周年記念事業の展示なども行われた。

岩手日日新聞社の許諾を得て転載しています



## 事務局紹介

### 花巻市生涯学習部生涯学習課国際交流室

室長	梅原 奈美
次長	加藤 美枝
上席主査	高山 くみ子
主査	鈴木 皓也
主事	佐々木 未来

### 公益財団法人花巻国際交流協会

理事長	佐々木 史昭
常務理事	畠山 憲男
事務局長	藤原 正己
事務局員	佐々木 李紗
事務局員	多田 千華
国際都市推進員	瀧澤 クリスティーン

### 公益財団法人花巻国際交流協会

### 令和5年度青少年海外派遣研修事業 派遣研修報告書

発行日	令和6年3月
発行所	公益財団法人花巻国際交流協会 〒025-0004 岩手県花巻市葛第3地割183番地1 (電話) 0198-26-5833 (FAX) 0198-26-5855 <a href="https://hanakokusai.wordpress.com/">https://hanakokusai.wordpress.com/</a>
印刷・製本	川嶋印刷株式会社 花北営業所

Hanamaki International Exchange Association  
2024, Printed in Japan

